

NO.15

さいたまけんかわぐちし
埼玉県川口市

はっこう にせんにじゅうにねんにがつ
発行 2022年2月

と も と も

TOMO×TOMO

がいこくじん にほんじん

じょうほうし

外国人と日本人のための情報誌

Newsletter for international friendship and foreign residents

为外国人与日本人共同创办的信息杂志

Tạp chí thông tin dành cho người nước ngoài và người Nhật

외국인과 일본인을 위한 정보지



もくじ

目次

Contents

目录

Mục lục

목차

だいじゅうさんかいわぐちしがいこくじん

にほんごすび～ちこんてすと

● 第13回川口市外国人による日本語スピーチコンテスト

pp. 1—5

The 13th Japanese Speech Contest by Foreign Residents in Kawaguchi

第13次川口市外国人日本語演説比赛

Cuộc thi Hùng biện tiếng Nhật dành cho người ngoại quốc tại thành phố Kawaguchi Lần thứ 13

제13회 가와구치시 외국인 일본어 스피치 콘테스트

かわぐちし いじん いなただはる

● 川口市の偉人～伊奈忠治～

pp. 6—9

A Great Figure of Kawaguchi City ~ Tadaharu Ina~

川口市伟人～伊奈忠治～

Bậc vĩ nhân thành phố Kawaguchi – Ina Tadaharu

가와구치시의 위인 ~이나 타다하루~

ばす

● みんなのための「みんななかまバス」

pp. 10—13

“Minna nakama Bus” for Community

为大家服务的“みんななかまバス”

“Minna nakama bus” dành cho mọi người

모두를 위한 ‘민나나카마 버스’

きめ

● 木の芽

pp. 14—17

Kinome - Young Japanese Pepper Tree Leaves

木之芽

Kinome - Lá non của cây sansho

나무 순

かわぐちし ばらんていあにはんごさようしうきょうかい

● 川口市のボランティア日本語教室紹介 (No. 13)

pp. 18—22

A Volunteered Japanese Language Class in Kawaguchi City (No. 13)

川口市志愿者日本语教室的介绍 (No. 13)

Giới thiệu lớp học tiếng Nhật tình nguyện ở thành phố Kawaguchi (No. 13)

가와구치시 봄런티어 일본어 교실 소개 (No. 13)

かわぐちしづらんていあにはんごさうしついちらん

● 川口市ボランティア日本語教室一覧

p. 24

A List of Kawaguchi City Volunteered Japanese Classes

川口市志愿者日本语教室一览表

Danh sách lớp học tiếng Nhật tình nguyện thành phố Kawaguchi

가와구치시 봄런티어 일본어 교실 일람

とあ かわぐち しみんせいかつぶ きょうどうすいしんか たぶんかきょうせいかかり
 問い合わせ 川口市 市民生活部 協働推進課 多文化共生係
 かわぐちしかわぐちいち いちいちさゆば ちほんかんとうえむんかく
 〒332-0015 川口市川口1-1-1キュボ・ラ本館棟M4階 かわぐち市民パートナーステーション
 TEL 048-227-7607 FAX 048-226-7718
 かわぐち ほーむべーじ こうかい みぎ にじげんこーど ちん
 川口市のホームページでも公開しています。右の二次元コードからご覧いただけます。



だいじゅうさんかいかわぐちしがいこくじん ほんごすびーちこんてすと
第13回川口市外国人による日本語スピーチコンテスト

れいわさん にせんにじゅういち ねんじゅうがつにじゅうよっか かわぐちえきまえしみん ほーる ふれんで いあ だいじゅうさんかいかわぐちしがいこくじん ほんごすびーちこんてすと
令和3(2021)年10月24日に川口駅前市民ホール・フレンディアで「第13回川口市外国人による日本語スピーチコンテスト」が行われました。これは、川口市に在住、在勤、在学している日本語を母語としない外国人が決まったテーマでスピーチを行ふもので、日本人と外国人がお互いを理解し、共生することを目指して毎年行われています。会場は新型コロナウイルスの感染対策が徹底されており、50人ほどがスピーチを聴きに
おどず
訪れました。

こんかい て 一 ま わたし かん ふ し ぎ ほん しゅう
今回のテーマは、「私が感じた不思議な日本の習慣」。出場者は、中国人3名、ベトナム人3名の計6名。食に関すること、お辞儀やお正月の習慣、桜の話など、どのスピーチも、日本人にとって普通のこと
が、外国人には驚きであったり、珍しく感じられるという内容でした。そして、そういった日本の習慣に驚くだ
けでなく、理解し、なじみながら日本での生活を楽しんでいることも伝わってきました。また、日本人があまり知
らない出身国文化についても教えてくれました。



げんせい しんさ けっか つぎ とお
厳正な審査の結果は、次の通りです。

| しょう 賞 | なまえ 名前 | しゅっしんこく 出身国 | すびーち たいとる スピーチのタイトル |
|-------------------------|------------------------------------|----------------|--|
| きんしょう 金賞 | かん へきなみ 韓碧波 | ちゅうごく 中国 | ゆ ふろ お湯とお風呂 |
| ぎんしょう 銀賞 | ちよ ぎょくしよう 褚玉宵 | ちゅうごく 中国 | ふ し ぎ じ ぎ 不思議なお辞儀 |
| どうしょう 銅賞 | れ てい ご っ く まい LE THI NGO OC MAI | べとなむ ベトナム | わたし ゆめ さくら みせ 私の夢は桜のお店、 かんれんしょっぷひら さくら関連ショップを開くこと |
| かんとうしょう 敢闘賞 (発表順) | こう いかん 黄一涵 | ちゅうごく 中国 | にほん ずる ずる しゅうかん 日本のズルズル習慣 |
| | vae どっく ふい ばあん VU DUC PHI BANG | べとなむ ベトナム | しょく 「食」のこと |
| | ちやん てい がー TRAN THI NGA | べとなむ ベトナム | にほん しょうがつ 日本のお正月 |

しゅつじょうしゃ みな きょうみぶか す びーち
出場者の皆さん、興味深いスピーチをありがとうございました！

きんしょうじゅしょしゃいんたびゅー
<金賞受賞者インタビュー>

きんしょう じゅしょう かんへきなみ す びーち ゆ ふろ ちゅうごくじん みづ
金賞を受賞した韓碧波さんのスピーチ「お湯とお風呂」は、中国人が水で
ゆの しゅうかん にほんじん ふろ おんせん はい しゅうかん
なくお湯を飲む習慣と、日本人がお風呂や温泉に入る習慣についてのもの
おな ゆ にほん ちゅうごく けんこう かつよう
です。同じ「お湯」が、日本でも中国でも健康のために活用されていますが、
つか かた まつた ちが じょうかい いま かん じしん ふろ
その使い方が全く違うことを紹介するとともに、今では韓さん自身もお風呂が
だいす ないよう こんですとしゅうりょうご かん はなし き
大好きになった、という内容でした。コンテスト終了後、韓さんにお話を聞きました。

きんしょう いま き も
— 金賞おめでとうございます。今のお気持ちちはいかがですか？
かん あがとうございます。私は今、大学院1年生で、普段は勉強で忙しい
きょう さんか ふんいき こんですと
ですが、今日は参加してよかったです。とてもいい雰囲気のコンテストでした。



ほんご きかん べんきょう こんですと で おも なん
 — 日本語はどのくらいの期間、勉強したのですか？ また、このコンテストに出ようと思ったきっかけは何ですか？
 韓 大学院進学のために 2019年4月に来日してからなので、2年半ぐらいです。小さい頃から自分を表現することが好きです
 し、勉強した日本語でスピーチをしてみようと思いました。

べんきょう ほんご す びーち おも
 留学先を日本にした理由を教えてください。

かん いちばん りゅう ちか まな かれいきょう との
 韓 一番の理由は、ないこと。それと、学ぶ環境も整っているし、日本の文化が大好きだからです。

だいがくいん なに けんきゅう
 大学院では何を研究しているのですか？

かん いぶんか こみゅ けーしょん けんきゅう えいご はな がいこくじん こうのう
 韩 异文化コミュニケーションを研究しています。英語を話したり、外国人と交流したりするのが好きなので。

じょうらい ゆめ なん
 将来の夢は何ですか？

かん けんきゅういん くに い さいご ほん く ほん かんきょう
 韩 研究員になりたいですし、いろいろな国に行ってみたいですが。でも最後は、やはり日本で暮らしたいですね。日本は環境もよいし、とても暮らしやすいです。

す あきら がんば い まえむ かん ほんご すうねん おぼ おも じょうず
 好きなことを諦めずに、頑張って生きていきたいという前向きな韓さん。日本語は、数年で覚えたとは思えないほど上手でした。

ほん かわぐら なが す ほん かいがい はしわた
 これからも日本に、そして川口に長く住んで、日本と海外の橋渡しをしてほしいですね。

ことし だいじゅよんかい す びーち こん ですと かいさい よてい がいこくじん みな ほんご みが しゆつじょう
 今年も、第14回のスピーチコンテストが開催される予定です。外国人の皆さん、ぜひ日本語に磨きをかけて、出場してみてください！



The 13th Japanese Speech Contest by Foreign Residents in Kawaguchi

The 13th Japanese Speech Contest by Foreign Residents in Kawaguchi was held on October 24, 2021, at Kawaguchi station front municipal hall Friendia. Foreign residents whose mother tongue is not Japanese, and living or working or studying in Kawaguchi City delivered speeches in Japanese under the given theme. This contest is organized each year on the purpose of realizing mutual understanding between different cultures and coexistence of people in that situation. Measures against COVID-19 were thoroughly taken, and welcomed 50 audiences who have come and listen to their speeches.



This year's theme was "Japanese customs that had made me puzzled". Contestants were comprised of 3 people from China and 3 people from Vietnam. On behind the scenes of "eating", the way of bowing, New Year season's habit and on cherry blossoms, etc. none of each has no astonishment for ordinary Japanese, however, foreign residents are often surprised, or greatly excited by that. I could really understand that they were enjoying living in Japan while getting surprised by those peculiar Japanese habits, and eagerly trying to understand them and accustomed to it. They also let us know about habits of their countries that are not familiar to most Japanese.

After a fair and unbiased consideration, we have reached a final result.

| Prize | Name | Country/Area | Title of Speech |
|---|-----------------|--------------|--|
| Gold Prize | Han Bibo | China | Hot water, hot tub |
| Silver Prize | Chu Yuxiao | China | Mysterious bows |
| Bronze Prize | Le Thi Ngoc Mai | Vietnam | My dream is open a Sakura shop, which specializes in Sakura goods. |
| Best Effort Prize (in order of appearance) | Huang Yihan | China | Slurping habits in Japan |
| | Vu Duc Phi Bang | Vietnam | Behind the scene of "Eating" |
| | Tran Thi Nga | Vietnam | New Year in Japan |

Thank you for wonderful speeches!

<Interview with a Gold Prize winner>

Gold Prize winner, Ms. Han Bibo talked about hot water, not cold water, drinking habit in China and hot-tub and hot spring bathing habit in Japan under the title of “Hot water, hot tub”. She introduced that both China and Japan use “hot water” for the purpose of people’s health, although its actual usage is completely different, and described details how she has come to become a hot-tub bathing fan. We had an interview with Ms. Han after the contest.



— Congratulations on your Gold Prize. How do you feel after the contest?

Ms. Han: Thank you very much. I am in a first year of a postgraduate school and am usually busying around with my research, though I feel really happy I could stand here today. I enjoyed the atmosphere, too.

— How long have you been studying Japanese? And could you tell us what brought you to make a speech here today?

Ms. Han: I came to Japan in April of 2019 to enter a postgraduate school, so it is about two and a half years, I think. Since I have been somewhat an expressive kind from my childhood, so I decided to make a speech in my freshly obtained Japanese skills.

— Could you tell us why you choose Japan for your postgraduate place?

Ms. Han: The first reason is its closeness to China. And the environment is ideal for learning, also I adore Japanese cultures.

— What is the theme of your research at a school?

Ms. Han: I am working on cross-cultural communication. I just like having a conversation in English and communicating with foreign people.

— What would you like to be in the future?

Ms. Han: I would like to be a researcher, also I want to visit various countries. But in the end, I want to come back and stay in Japan. Circumstance is good and so comfortable to live.

She, who is so forward-facing, said that she wanted to keep moving forward without giving up things that interested her so much. Her Japanese was excellent that one would not believe that she had obtained it in such a short period of years. We hope that she would stay in Japan, live in Kawaguchi longer and become a link between Japan and other countries.

We are planning to have the next 14th Speech Contest this year. We will be waiting for your registrations. Brush up your Japanese, and Try it!



第13次川口市外国人日本語演讲比赛

2021年10月24日在川口站前市民大厅FRIENDIA举行了“第13次川口市外国人日本语演讲比赛”。这是一个每年由在川口市内居住、工作或学习，且不以日语为母语的外国人根据规定主题用日语发表演讲，以促进日本人和外国人相互理解和共生为目的而举办的活动。会场为防止新型冠状病毒的传播采取了彻底的防护措施，约有50人前来聆听了演讲。

这次的演讲主题是“我觉得不可思议的日本习惯”。总共有6名选手参赛，3名中国人和3名越南人。大家就有关饮食，鞠躬礼仪，新年的习惯，关于樱花的话题等，发表了演讲。这些对日本人来说是很普通的事情，但对外国人而言却是令人感到惊讶或新奇的内容。而且，通过演讲让我明白大家并没有仅仅停留在对这些日本习惯表示惊讶，而是在日常生活中一边接受这些习惯，一边享受在日本的生活。另外，他们还向大家介绍了自己祖国的一些不太为日本人所了解的文化。

严格的评审结果如下。

| 奖项名称 | 姓名 | 国籍 | 演讲题目 |
|----------------|------|----|------------------|
| 金奖 | 韩碧波 | 中国 | 热水与泡澡 |
| 银奖 | 褚玉宵 | 中国 | 不可思议的鞠躬 |
| 铜奖 | 黎氏玉梅 | 越南 | 我的梦想是开一家与樱花有关的小店 |
| 参与奖 (按发表顺序) | 黄一涵 | 中国 | 日本零食的习惯 |
| | 武德飞鸿 | 越南 | 关于“食物” |
| | 陈氏娥 | 越南 | 日本的新年 |

感谢所有参赛者的精彩演讲！

<对金奖获奖者的采访>

获得金奖的韩碧波在她的演讲“热水与泡澡”中谈到了中国人喝热水而不喝冷水的习惯和日本人的泡澡或泡温泉的习惯。同样的“热水”，无论在日本还是中国都是用来促进健康，但使用的方式却截然不同，而韩女士自己如今也喜欢上了泡澡。比赛结束后，我们



采访了韩女士。

—— 祝贺您获荣金奖。可以谈谈您现在的感想吗？

韩：非常感谢。我现在是研究生一年级学生，平时忙于学习，但我很高兴今天参加了这个比赛。比赛的氛围非常好。

—— 您学习日语有多久了？是什么原因让您决定参加这次比赛？

韩：我于2019年4月来日本上研究生院，到现在已经有两年半左右了。我从小就喜欢表达自己，我想尝试用所学过的日语进行演讲。

—— 您为什么选择日本作为您的留学目的地？

韩：最重要的原因是，它离中国很近。另外，日本的学习环境很好，而我也喜欢日本文化。

—— 您在研究生院学的是什么专业？

韩：我正在学习跨文化交流。我喜欢说英语和与外国人交流。

—— 您未来的梦想是什么？

韩：我想成为一名研究员，访问许多不同的国家。但最终，还是想居住在日本。日本不仅环境好，而且生活便利。



韩女士是一个对自己喜欢的事情坚持不懈，积极向上的人。她的日语非常好，很难相信她是在短短几年内学会的。希望她能继续在日本、在日本长期生活下去，成为日本和其他国家之间的桥梁。

今年也将举办第14次演讲比赛。各位外国人士，请大家努力提高自己的日语能力，前来挑战日语演讲比赛！



Cuộc thi Hùng biện tiếng Nhật dành cho người ngoại quốc tại thành phố Kawaguchi Lần thứ 13

Vào ngày 24/10/2021, tại hội trường thành phố Friendia trước ga Kawaguchi, “Cuộc thi hùng biện tiếng Nhật dành cho người nước ngoài lần thứ 13” đã được tổ chức. Là cuộc thi dành cho người nước ngoài đang sinh sống, làm việc, học tập tại thành phố Kawaguchi, có tiếng Nhật không phải là ngôn ngữ mẹ đẻ, phát biểu về các đề tài đã được quy định, cuộc thi được tổ chức hàng năm giúp cho người Nhật và người nước ngoài có thể hiểu nhau và cùng nhau sinh sống. Tại hội trường, các giải pháp phòng chống lây nhiễm virut corona chúng mới đã được thực hiện triệt để, có khoảng 50 người đã đến nghe phát biểu.

Chủ đề cuộc thi lần này là “phong tục ở Nhật Bản mà tôi cảm thấy kì lạ”. Có tất cả 6 thí sinh tham gia: 3 thí sinh Trung Quốc và 3 thí sinh Việt Nam. Những chủ đề phát biểu về âm thực, cách cúi chào, phong tục ngày Tết, câu chuyện về hoa anh đào, v.v. đều là những chủ đề khá bình thường đối với người Nhật, nhưng đối với người nước ngoài, đây lại là những nội dung bất ngờ và mới lạ. Hơn thế, thông qua đây, thí sinh tham gia không chỉ thể hiện sự bất ngờ đối với phong tục của Nhật Bản, mà còn thể hiện sự hiếu biết, làm quen và tận hưởng cuộc sống tại Nhật Bản. Ngoài ra, chúng ta còn được biết thêm về văn hóa các nước của thí sinh dự thi mà người Nhật cũng không biết.

Kết quả sau quá trình đánh giá khắt khe như sau:

| Giải | Tên | Quốc gia | Chủ đề phát biểu |
|--|-----------------|------------|--|
| Giải vàng | Han Bibo | Trung Quốc | Nước nóng và bồn tắm |
| Giải bạc | Chu Yuxiao | Trung Quốc | Cách cúi chào kì lạ |
| Giải đồng | Le Thi Ngoc Mai | Việt Nam | Ước mơ của tôi về cửa hàng hoa anh đào hoặc bán sản phẩm liên quan đến hoa anh đào |
| Giải khuyến khích (theo thứ tự phát biểu) | Huang Yihan | Trung Quốc | Thói quen xì xụp ở Nhật |
| | Vu Duc Phi Bang | Việt Nam | Câu chuyện trong “âm thực” |
| | Tran Thi Nga | Việt Nam | Tết ở Nhật |



Cảm ơn tất cả thí sinh về những bài phát biểu đầy thú vị của các bạn!

<Phỏng vấn thí sinh nhận giải vàng>

Bài phát biểu của chị Han Bibo nhận giải vàng “nước nóng và bồn tắm”, nói về thói quen của người Trung Quốc uống nước nóng mà không phải là nước bình thường và thói quen của người Nhật Bản khi tắm bồn và tắm onsen. Qua bài phát biểu, chị Han giới thiệu việc người Nhật và người Trung Quốc đều sử dụng nước nóng để duy trì sức khỏe nhưng cách sử dụng thì hoàn toàn khác nhau, và cho đến nay, bản thân chị Han cũng rất thích tắm bồn. Kết thúc cuộc thi, chúng tôi đã có buổi nói chuyện với chị Han.

—— Xin chúc mừng chị đã nhận giải vàng. Cảm xúc của chị bây giờ như thế nào?

Chị Han: Tôi xin cảm ơn. Hiện nay, tôi đang là sinh viên cao học năm thứ 1, thông thường, việc học tập khá bận, hôm nay thật may mắn là tôi có thể tham gia cuộc thi. Một cuộc thi hùng biện có không khí rất thoải mái.

—— Chị đã học tiếng Nhật được bao lâu rồi? Lý do gì khiến chị quyết định tham gia cuộc thi hùng biện?

Chị Han: Bởi vì có dự định học cao học, tôi đã đến Nhật từ tháng 4 năm 2019, đến nay là khoảng 2 năm rưỡi. Từ nhỏ, tôi đã rất thích được thể hiện bản thân, do đó tôi nghĩ rằng mình nên thử phát biểu bằng vốn tiếng Nhật mình đã học được.

—— Chị có thể cho biết lý do chọn Nhật Bản là đất nước để đến du học được không?

Chị Han: Lý do chính là do gần. Hơn nữa, môi trường học tập nghiêm túc, và tôi cũng rất thích văn hóa Nhật Bản.

—— Chị nghiên cứu về nội dung gì tại chương trình cao học?

Chị Han: Tôi đang nghiên cứu về việc giao tiếp giữa các nền văn hóa. Bởi vì tôi rất thích nói chuyện bằng tiếng Anh và giao lưu với người nước ngoài.

— Giác mơ trong tương lai của chị là gì?

Chị Han: Tôi muốn trở thành một nhà nghiên cứu, muốn được đi đến nhiều nước. Và cuối cùng, đương nhiên là tôi muốn sống ở Nhật. Bởi Nhật có môi trường tốt, rất dễ sống.

Chị Han là người luôn lạc quan, sống hết mình, không bao giờ từ bỏ những điều mình thích. Tiếng Nhật của chị Han giỏi đến mức chúng tôi không thể nghĩ rằng chị mới học tiếng Nhật vài năm. Chúng tôi hi vọng chị sẽ sống lâu dài ở Nhật cũng như ở thành phố Kawaguchi và làm cầu nối giữa Nhật Bản và các nước.

Năm tới, chúng tôi dự định sẽ tổ chức cuộc thi hùng biện lần thứ 14. Các bạn người nước ngoài hãy trau dồi tiếng Nhật và nhất định hãy tham gia nhé.



제13회 가와구치시 외국인 일본어 스피치 콘테스트

레이와3(2021)년 10월 24일에 가와구치역 앞 시민홀 프렌디아에서 “제13회 가와구치시 외국인 일본어 스피치콘테스트”가 열렸습니다. 이것은 가와구치시에 살거나 근무하거나 재학하고 있는 일본어를 모어로 하지 않는 외국인이 정해진 테마로 스피치를 하는 것으로 일본인과 외국인이 서로 이해하고 공생하기를 바라며 매년 열리고 있습니다. 대회장은 신종 코로나바이러스 감염대책이 철저히 이루어졌으며, 50명정도가 스피치를 듣기 위해 방문했습니다.

이번 테마는 “내가 느낀 이상한 일본의 습관”. 참가자는 중국인 3명, 베트남인 3명 합6명. 음식에 관한 것, 인사나 설날 습관, 벚꽃 이야기 등, 어느 스피치도 일본인에게는 보통 일이 외국인에게는 놀랍거나 신기하게 느껴진다는 내용이었습니다. 그리고 그런한 일본 습관에 놀랄뿐만 아니라 이해하고 익숙해지면서 일본에서의 생활을 즐기고 있는 것도 전해져 왔습니다. 또한 일본인이 잘 모르는 출신국의 문화에 대해서도 가르쳐 주었습니다.

엄정한 심사 결과는 다음과 같습니다.

| 상 | 이름 | 출신국 | 스피치 제목 |
|--------------|----------|-----|-----------------------------|
| 금상 | 칸 헤키나미 | 중국 | 뜨거운 물과 목욕 |
| 은상 | 초 푸쇼우 | 중국 | 이상한 인사 |
| 동상 | 레 티 꼭 마이 | 베트남 | 내 꿈은 벚꽃가게 벚꽃 관련 가게를 여는 것 |
| 감투상 (발표순) | 코우 이칸 | 중국 | 일본의 질질 끄는 습관 |
| | 비 독 휘방 | 베트남 | ‘음식’에 관한 것 |
| | 장 티 가 | 베트남 | 일본의 설날 |

참가자 여러분, 흥미로운 스피치 감사합니다!



<금상 수상자 인터뷰>

금상을 수상한 칸 헤키나미 씨의 스피치 “뜨거운 물과 목욕”은 중국인이 물이 아닌 뜨거운 물을 마시는 습관과 일본인이 목욕이나 온천에 들어가는 습관에 관한 것입니다. 같은 “뜨거운 물”이 일본에도 중국에도 긴장을 위해 활용되고 있으나 그 사용방법이 전혀 다르다는 것을 소개하면서 지금은 칸 씨 자신도 목욕이 너무 좋아졌다는 내용이었습니다. 콘테스트가 끝난 후 칸 씨한테 이야기를 들었습니다.

— 금상 축하드립니다. 지금 기분이 어떻습니까?

칸 감사합니다. 저는 지금 대학원 1학년으로 평소에는 공부로 바쁘지만 오늘은 참가해서 좋았습니다. 너무 좋은 분위기의 콘테스트였습니다.

— 얼마나 공부하셨습니까? 또, 이 콘테스트에 나오려고 생각한 계기는 무엇입니까?

칸 대학원 진학을 위해 2019년 4월에 일본에 오면서이므로 2년 반 정도입니다. 어렸을 때부터 자신을 표현하는 것을 좋아했고 공부한 일본어로 스피치를 해보려고 생각했습니다.

— 유학 오는 곳을 일본으로 한 이유를 가로쳐 주십시오.

칸 첫번째 이유는 가까운 것. 그리고 공부할 수 있는 환경도 갖추어져 있고 일본의 문화를 너무 좋아하기 때문입니다.

— 대학원에서 무엇을 연구하고 있습니까?

칸 이문화커뮤니케이션을 연구하고 있습니다. 영어로 말하거나 외국인과 교류하는 것을 좋아해요.

— 장래희망은 무엇입니까?

칸 연구원이 되고 싶고, 여러 나라에 가보고 싶습니다. 그렇지만 마지막에는 역시 일본에서 살고 싶습니다. 일본은 환경도 좋고 매우 살기 좋습니다.

좋아하는 것을 포기하지 않고 열심히 살고 싶다는 긍정적인 칸 씨. 일본어를 몇 년 동안 공부했다고는 생각할 수 없을 정도로 잘 했습니다. 앞으로도 일본에, 그리고 가와구치에 오래오래 살면서 일본과 해외의 다리 역할을 해주면 좋겠습니다.

올해도 제 14회 스피치콘테스트가 개최될 예정입니다. 외국인 여러분, 일본어를 열심히 공부해서 꼭 참가해 보십시오!

かわぐちし いじん いなただはる 川口市の偉人～伊奈忠治～

みな かわぐちし いじん し こんかい かんとうち ほう とち かいはつ いなただはる しょうかい ただはる あ
皆さんは、川口市の偉人を知っていますか。今回は、関東地方の土地を開拓した伊奈忠治について紹介します。忠治は、荒れ
とち かいたく あら たづく かわ いどう どばくこうじ じゅうなせ いき えど はってん ひとびと く ささ
た土地の開拓や新たな田作り、川の移動などの土木工事をして、17世紀の江戸の発展や人々の暮らしを支えていました。

いなし 伊奈氏とは

いなただはる えどじだい はじ いなただづば じなん う ち ただづべ とくがわいえやす しんらい だいかん しゅくん か
伊奈忠治は、江戸時代の初めに伊奈忠次の次男として生まれました。父の忠次は、徳川家康に信頼されている代官(主君の代
しはいも かんり ひとひとり ただづば ばんざい いなまち こうのすし しはいも いなまち やしき かれ
わりに支配地を管理する人)の一人でした。忠次は、現在の伊奈町と鴻巣市を支配地にもらい、伊奈町に屋敷がありました。彼は
どばくじぎょう こうせき おさ ひやくまんぐく しはいも おさ こく たんい いっこく やくひやくじきろぐらむ こめ
土木事業でさまざまな功績を収め、百万石の支配地を治めていました。「石」とは単位のことで、一石は約150kgの米がとれる
とち ひろ あらわ とうじ いわつきはん やくろくまんぐく かわごえはん ぎょうだはん じゅうまんぐく いなし しはいも こうだい
土地の広さを表します。当時、岩槻藩が約六万石、川越藩と行田藩がそれぞれ十万石だったことから、伊奈氏の支配地の広さ
わ はん げんだい けん
が分かるでしょう。藩とは現代の県のようなものです。

かわぐち あかやまじん や

川口の赤山陣屋

けいわうじゆうご せんろっぽくやくじゅう ねん ただづば な ねすこ ただはる しはいも いもぶ まか も げんざい
慶長15(1610)年に忠次が亡くなると、息子の忠治がその支配地の一部を任されることになりました。その地が現在の
かわぐちあかやま ただはる ななせんごく しはいも うと あかやまじん や つく じんや やくしょ けらい えら ひと もと はたら ひと
川口市赤山でした。忠治は七千石の支配地を受け取り、赤山陣屋を造りました。陣屋とは役所と家来(偉い人の下で働く人)の
じゅうきょ しはいも かんり ばくふ やくにん と ばしょ つか あかやまじん や どうざい やくせんろっぽくやくめーとる なんばく
住居で、支配地の管理をするほか、幕府の役人が泊まる場所として使われることもありました。赤山陣屋は東西約1,600m、南北
やくせんなひやくめーとる にほんさいだい じんや い ただはる じんや きよてん どばくこうじ すす
約1,700mあり、日本最大の陣屋と言われています。忠治はこの陣屋を拠点に土木工事を進めていました。

だいじぎょう とねがわ とうせん あらかわ せいせん

大事業「利根川の東遷、荒川の西遷」

ただはる ちか おな あたら た ふ かわ いどう おお どばくこうじ おこな なか とねがわ あらかわ
忠治は父と同じように、新しい田を増やしたり川の移動をしたりと、多くの土木工事を行っていました。中でも利根川と荒川の
せいび ただはる もっと いだい しごと い かれ はじ いっぽん かわ とねがわ あらかわ ふた わ とねがわ ひがしがわ
整備は、忠治の最も偉大な仕事と言えるでしょう。彼は初め一本だった川を、利根川と荒川の2つに分けました。利根川を東側
あらかわ にしがわ いどう こうじ こうぜい ひがい へ た かいはつ すす あらかわ えど まち
へ、荒川を西側へと移動させたのです。この工事により洪水の被害が減り、田の開発も進みました。さらに、荒川が江戸の町までつな
ひと しょひん いき あらかわ じょうりゅう こま すな はこ すな
がったことにより、人や商品が行き来しやすくなりました。また、荒川が上流からきめの細かい砂を運んできたことで、その砂を
りょう いものづく かわぐち はってん かんが ただはる おこな かわ いどう えど ばくふ はんえい ささ げんざい
利用した鉄物造りが川口で発展したと考えられています。このように忠治が行った川の移動は、江戸幕府の繁栄を支え、現在にも
つづ さんぎよう のこ 続く産業を残すきっかけとなりました。

いなし しゅうへん ひとびと

伊奈氏周辺の人々

いなし ただはる ゆうしゅう けらい かずおお えどがわ かいはつ ばんざい わらびし とも せいび ただはる けらい かか
伊奈氏には忠治だけでなく、優秀な家来も数多くいました。江戸川の開発、現在の蕨市の土地の整備にも、忠治の家来が関わっていたと言われています。

ほうえいよ せんなんひやくよ ねん ふじさん だいふんか さいがい ふっこう いなし かか こうせき ひとびと した
宝永4(1704)年の富士山の大噴火による災害からの復興にも伊奈氏が関わっており、さまざまな功績から人々に慕われてい
じゅうだいいつづ いなし かいえき いなし けんりく ばくふ とも かえ
ました。そのため10代続いた伊奈氏が改易(伊奈氏の権力がなくなり、幕府に土地を返
あと ひとびと ばくふ いえさいこう きぼう たんがんしょ やくじゅうれんかん
すこと)になった後、人々から幕府へ、お家再興を希望する嘆願書が約50年間にわたつ
だ
て出されました。

かわぐち えど はってん ささ ただはる かつやく めみは
川口だけでなく、江戸の発展まで支えた忠治の活躍には目を見張るものがあります
かわぐちし あかやまじよあと ほり こうのすし いなただづば ただはる はか のこ
ね。川口市には赤山城跡とお堀が、鴻巣市には伊奈忠次・忠治の墓が残っています。ま
いいなほーくかわぐち かわぐちきゅぼ らいのかい ただはる どうぞう れいわよ にせんにじゅうに
た、イナパーク川口や川口キユボ・ラ1階には忠治の銅像があります。令和4(2022)
ねいわいがつようか さんがつじゅさんいち かわぐちしきょうどりょうかん きかくてん いな ただはる かいさい
年1月8日から3月13日まで、川口市郷土資料館にて企画展「伊奈☆忠治」が開催さ
ただはる くわ し せっこう きかい おとず
れています。忠治についてより詳しく知ることができる、絶好の機会です。ぜひ訪れてみてください。

いなただはるん れいわよ にせんにじゅうに ねいわいがつようか ど さんがつじゅさんいち
「伊奈忠治展」 令和4(2022)年1月8日(土)から3月13日(日)

かわぐちしきょうどりょうかん

川口市郷土資料館

じゅうしょ かわぐちしきとが やほんちょうに いち にじゅうに

住所:〒334-0002 川口市鳩ヶ谷本町2-1-22

TEL: 048-283-3552、HP: <http://www.kawaguchi-bunkazai.jp/kyoudo/>



いいなばーくかわぐち さつえい
イナパーク川口で撮影

A Great Figure of Kawaguchi City～*Tadaharu Ina*～

Do you know one of the greatest names of Kawaguchi City? Today, I am going to introduce you *Tadaharu Ina*, who took on the development works of lands of the *Kanto* region. He contributed significantly to the development of Edo—the shogunate capital and people's lives of the 17th century by supervising such various public engineering works as clearing of wastelands, tilling of new paddy fields, changing of the course of the river, etc.

About the *Ina* clan

Tadaharu Ina was born early in the Edo period as a second son of *Tadatsugu Ina*. His father *Tadatsugu* was one of the most trusted local administrators (a bailiff who governs the dominion on behalf of its master) by *Tokugawa Ieyasu*, the *Shogun*. *Tadatsugu* had been granted a fief in today's Town of Ina and City of Kounosu, and had an estate in Town of Ina. He had done distinguished services in public engineering works and was administering the fief of 1,000,000-koku."1-koku" is a unit of land which promises 150kg of rice harvest. Considering lands granted for other feudal lords contemporaneous with him, e.g. 60,000-koku for *Iwatsuki-han* and 100,000-koku for *Kawagoe-han* and *Gyoda-han* each, you can see how vast the land he was granted. By the way, please consider *Han* (fief) as today's Prefecture.

Akayama Jinya, Base of operations in Kawaguchi

After *Tadatsugu*'s death in 1610, his son *Tadaharu* inherited part of his father's fief. That fief was today's *Akayama* area of Kawaguchi City. *Tadaharu*, who was given the fief of 7,000-koku, built his base of operations called *Akayama-Jinya* there. *Jinya* is a sort of combined public government office and lodging facilities for retainers (who works for a top-ranking personage), which fulfilled the function of the base of operations of the fief and sometimes served as an accommodation for the shogunate officials. *Akayama-Jinya* is considered as the largest *Jinya* in Japan, with the premises stretches 1,600m from east to west, 1,700m from north to south. *Tadaharu*, putting this *Jinya* as his base of operations, embarked on various public engineering works.

Large project : “*Tone-gawa* river to East, *Ara-kawa* river to West”

Following his father's footsteps, *Tadaharu* undertook many public engineering works that includes cultivation of new rice paddy fields, shifting of the course of rivers. Particularly, river improvement project of *Tone-gawa* river and *Ara-kawa* river is deemed as one of his greatest works. He separated one river into two, *Tone-gawa* river and *Ara-kawa* river. As a result of this work, *Tone-gawa* river goes to flow east, *Ara-kawa* river goes to flow west. This river improvement significantly diminished damages caused by floods as well as encouraged cultivation of rice paddies. Also, safely connected transportation route to the City of Edo via *Ara-kawa* river facilitated the mobility of people and commodities. In addition to this, it is said that fine sand swept down from the upper course of *Ara-kawa*-river contributed to the development of Kawaguchi's cast-iron industry. *Tadaharu*'s work of shifting the course of river had been a force behind the scenes for the prosperity of the Edo Shogunate, as well as gave birth to the industry which keeps thriving even today.

People around *Ina* clan

To say nothing of *Tadaharu*, *Ina* clan had been blessed with many talented vassals. It is said that *Tadaharu*'s vassals were directly engaged in *Edo-gawa* river improvement and land improvement of today's Warabi City.

The *Ina* clan was also engaged in reconstruction work after the damages from large-scale eruption of Mt. Fuji in 1704, and their distinguished services endeared them to people. For that reason, after the dismissal (deprived of political power and restitution of their fief to the Edo shogunate) of the *Ina* clan that had lasted for ten generations, people kept submitting written petitions to the Edo Shogunate requesting the restoration of the status for *Ina* clan for fifty long years.

It is astonishing to trace back *Tadaharu*'s remarkable services that contributed to the growth of not only Kawaguchi, but the city of Edo. We can still see ruins of *Akayama* castle (*Jinya*) and its moat in Kawaguchi City, tombs of *Tadatsugu Ina* and *Tadaharu Ina* in Kounosu City. *Tadaharu*'s bronze statues sit in Ina Park Kawaguchi and on the ground floor of Kawaguchi Cupola building. Fortunately, Kawaguchi City Local Archives is holding a special exhibition of “*Ina ☆ Tadaharu*” from January 8 to March 13, 2022. It is a wonderful opportunity to know more about *Tadaharu*. Why do not you visit and enjoy the exhibition.

“Exhibition of Tadaharu Ina” January 8 (Sat) – March 13 (Sun), 2022
Kawaguchi City Local Archives

Address: 1-22, Hatogayahoncho 2-chome, Kawaguchi City 〒334-0002
TEL: 048-283-3552, HP:<http://www.kawaguchi-bunkazai.jp/kyoudo/>



川口市伟人～伊奈忠治～

大家知道川口市的伟人吗？这次我们将向您介绍在关东地区开发土地的伊奈忠治。忠治开垦荒芜的土地、开辟新的农田、并大兴河道改造等土木工程，对17世纪江户的发展和人们的生活起到了重要的作用。

伊奈家族是指

伊奈忠治出生于江户时代初期，是伊奈忠次的次子。父亲忠次是德川家康所信赖的代官（代替主君管理领地的人）之一。忠次在现在的伊奈町和鸿巢市获得领地，并在伊奈町拥有住宅。他在土木事业上取得了各种成就，治理了百万石的领地。“石”是指单位，一石表示可以收获约150kg大米的土地面积。当时岩槻藩约有6万石，川越藩和行田藩各有10万石，由此可见伊奈家族的领地之广。藩相当于现代的县。

川口的赤山阵屋

庆长15（1610）年忠次去世后，其子忠治被任命管理其领地的部分土地。这就是现在的川口市赤山。忠治接受了7千石的土地，建造了赤山阵屋。阵屋是政府机关和家臣（在伟人手下工作的人）的住所，除了作为管理领地的基地之外，还被用作幕府官员住宿的地方。赤山阵屋东西约1600米，南北约1700米，据说它是日本最大的阵屋。忠治将该阵屋作为其土木工程工作的基地。

大事业“利根川的东迁、荒川的西迁”

忠治和他父亲一样，进行了大量的土木工程，如增加新的农田和河道改造。其中对利根川和荒川的整治可以说是忠治最伟大的成就。他将原来的河流一分为两，即利根川和荒川。把利根川引向东边，把荒川引向西边。这项工程减少了洪水造成的损失，促进了农田的开发。此外，荒川与江户城（现东京）相连，使人与商品的流动变得更加便利。另外，荒川也从上游漂来了细沙，可以认为正是如此，使用这些沙子的铸造业在川口得到了发展。忠治的这种河流整治运动支持了江户幕府的繁荣，为延续至今的产业提供了契机。

伊奈家族周围的人们

伊奈家族除了忠治，还有很多优秀的家臣。据说，忠治的家臣还参与了江户川的开发和现在蕨市的土地的整改。

伊奈家族还参与了对宝永4（1704）年富士山大喷发造成的灾难的恢复工作，由于这些成就他们受到人们的爱戴。因此，在传承了10代的伊奈家族被改易（消除伊奈家族的权力，将土地归还给幕府）之后约50年间，仍有人向幕府递交要求恢复该家族的请愿书。

忠治不仅对川口，甚至对江户发展也做出的贡献令人刮目相看。川口市有赤山城和扩城河的遗迹，而且鸿巢市还有伊奈忠次、忠治的坟墓。另外，伊奈公园川口和川口Cupo・La的1楼有忠治的铜像。从2022年1月8日至3月13日，在川口市乡土资料馆举办“伊奈☆忠治”特别展览。这是能让您更详细地了解忠治的绝好机会。请务必去看一看。

“伊奈忠治展”于2022年1月8日（周六）至3月13日（周日）举行。

川口市乡土资料馆

地址：〒334-0002川口市鴻谷本町2-1-22

TEL：048-283-3552，HP：<http://www.kawaguchi-bunkazai.jp/kyoudo/>



Bậc vĩ nhân thành phố Kawaguchi – Ina Tadaharu

Các bạn có biết về những bậc vĩ nhân của thành phố Kawaguchi không? Lần này, chúng tôi sẽ giới thiệu về ông Ina Tadaharu – người đã phát triển vùng đất khu vực Kanto. Ông Tadaharu đã góp phần thúc đẩy phát triển vùng Edo thế kỷ thứ 17 và hỗ trợ cuộc sống của nhiều người dân bằng việc tiến hành xây dựng các công trình dân dụng như khai phá đất cằn cỗi, canh tác ruộng mới, di chuyển dòng sông, v.v.



Gia tộc Ina là ai?

Ông Ina Tadaharu là con thứ hai trong gia đình Ina Tadatsugu, được sinh ra vào đầu thời đại Edo. Ông Tadatsugu, bố của ông Tadaharu, là một quan trưởng (người thay mặt lãnh chúa, cai quản các vùng đất thuộc địa) được trướng quân Tokugawa Ieyasu tin tưởng. Ông Tadatsugu được trao cho thị trấn Ina và thành phố Konosu hiện nay làm vùng đất thuộc địa và có một biệt phủ tại thị trấn Ina. Ông có rất nhiều thành tích trong việc xây dựng các công trình dân dụng, và cai trị vùng đất thuộc địa rộng hàng triệu koku. “Koku” là đơn vị đo độ rộng của đất đai, 1 koku tương ứng với vùng đất có thể thu hoạch được khoảng 150 kg gạo. Lãnh địa Iwatsuki rộng khoảng 6 vạn koku, lãnh địa Kawagoe và lãnh địa Gyoda rộng khoảng 10 vạn koku, từ đó chúng ta có thể hiểu độ rộng của vùng đất thuộc địa do ông Ina cai trị. Lãnh địa giống như là tinh hiện nay.

Akayama Jinya ở Kawaguchi

Vào năm Keichou 15 (năm 1610), khi ông Tadatsugu mất, ông Tadaharu được giao quyền cai quản một phần vùng đất thuộc địa đó. Đó chính là vùng Akayama thuộc thành phố Kawaguchi hiện nay. Ông Tadaharu đã nhận vùng đất thuộc địa rộng khoảng 7.000 koku và xây dựng Akayama Jinya. Jinya là nơi ở của quan chức cai quản và các gia nhân (người làm việc dưới quyền các quan chức), ngoài việc cai quản các vùng đất thuộc địa, còn được sử dụng làm nơi ở cho quan chức mặc phủ. Akayama Jinya rộng khoảng 1.600m về hướng Đông Tây và khoảng 1.700m về hướng Nam Bắc, đây được cho rằng là jinya lớn nhất của Nhật Bản. Sau đó, ông Tadaharu đã lấy jinya này là cứ điểm, tiến hành xây dựng các công trình dân dụng xung quanh.

Đại công trình “Dịch chuyển sông Tone về phía Đông, sông Ara về hướng Tây”

Cũng giống như cha ông, ông Tadaharu đã tiến hành mở rộng ruộng đất mới, dịch chuyển dòng chảy và xây dựng nhiều công trình dân dụng. Trong số đó, việc điều chỉnh dòng chảy của sông Tone và sông Ara có thể nói là công trình vĩ đại nhất của ông Tadaharu. Ban đầu là một dòng sông, ông đã chia thành 2 dòng là sông Tone và sông Ara. Ông đã làm cho dòng sông Tone chảy về hướng Đông và dòng sông Ara chảy về hướng Tây. Công trình đã giúp giảm các thiệt hại do lũ lụt và thúc đẩy phát triển ruộng đồng. Hơn nữa, sông Ara đã chảy đến vùng Edo giúp người dân và hàng hóa dễ dàng hơn. Ngoài ra, sông Ara khi chảy từ thượng nguồn có mang theo những hạt cát có kết cấu mịn, người ta cho rằng chính nhờ điều này mà ngành sản xuất đúc kim loại có sự dụng loại cát này đã phát triển ở Kawaguchi. Việc dịch chuyển dòng sông mà ông Tadaharu đã thực hiện góp phần đem lại sự phồn thịnh của mạc phủ Edo, là khởi đầu của ngành công nghiệp vẫn đang tiếp tục phát triển đến nay.

Những người xung quanh gia tộc Ina

Gia tộc Ina không chỉ có ông Tadaharu, mà còn rất nhiều gia nhân tài giỏi. Người ta cho rằng những gia nhân của ông Tadaharu cũng đã tham gia vào quá trình khai thác dòng sông Edo và xây dựng vùng đất là thành phố Warabi hiện nay.

Gia tộc Ina cũng đã tham gia vào công cuộc phục hồi sau thảm họa phun trào núi lửa của núi Phú Sĩ vào năm Hoei thứ 4 (năm 1704), và được rất nhiều người tương nhớ vì những công lao đó. Vì thế, sau 10 đời liên tiếp, khi gia tộc Ina bị tước bỏ quyền lực (quyền lực của gia tộc Ina bị mất, hoàn trả đất đai cho mạc phủ), rất nhiều người đã nộp bản kiến nghị trong suốt 50 năm tới Mạc phủ bày tỏ mong muốn được phục hồi lại nhà cửa.

Những hoạt động của ông Tadaharu đóng góp cho sự phát triển không chỉ khu vực Kawaguchi mà còn cả vùng Edo thực sự đáng kinh ngạc. Cho đến nay, di tích biệt phủ Akayama và kênh đào vẫn còn ở thành phố Kawaguchi, ngôi mộ của ông Ina Tadatsugu và Tadaharu vẫn còn ở thành phố Konosu. Ngoài ra, tại công viên Ina park Kawaguchi và tầng 1 tòa nhà Kawaguchi Cupola có tượng đồng của ông Tadaharu. Từ ngày 8/1/2022 đến 13/3/2022, tại Bảo tàng tư liệu địa phương thành phố Kawaguchi sẽ tổ chức buổi triển lãm đặc biệt mang tên "Ina Tadaharu". Đây là cơ hội lý tưởng để các bạn có thể biết rõ hơn về ông Tadaharu. Nhất định các bạn hãy đến tham gia nhé!

"Triển lãm Ina Tadaharu" từ ngày 8/1/2022 (thứ bảy) đến ngày 13/3 (chủ nhật)

Bảo tàng tư liệu địa phương thành phố Kawaguchi

Địa chỉ: 〒334-0002 Kawaguchi-shi, Hatogaya-honcho 2-1-22

Số điện thoại: 048-283-3552, Trang web: <http://www.kawaguchi-bunkazai.jp/kyoudo/>



가와구치시의 위인~이나 타다하루~

여러분은 가와구치시의 위인을 아십니까? 이번에는, 관동지방의 토지를 개발한 이나 타다하루에 대해 소개하겠습니다. 타다하루는 거친 토지의 개척이나 새로운 논 만들기, 강의 이동 등의 토목 공사를 하여, 17세기에 에도의 발전과 사람들의 생활을 뒷받침하고 있었습니다.

이나 씨란?

이나 타다하루는 에도 시대 초반에 이나 타다지의 차남으로 태어났습니다. 아버지인 타다지는 도쿠가와 이에야스에게 신뢰받는 대관(주군 대신 지배자를 관리하는 사람)의 한 사람이었습니다. 타다지는, 현재의 이나마치와 코노스시를 지배자로 받았고, 이나마치에 저택이 있었습니다. 그는 토목 사업에서 다양한 공적을 거두었고 백만석의 지배지를 다스렸습니다. 「석」이란 단위로, 일석은 약 150kg의 쌀을 취할 수 있는 토지의 넓이를 나타냅니다. 당시 이와초키번이 약 육만석, 가와고에번과 교다번이 각각 십만석이었기 때문에 이나 씨의 지배지의 광대함을 알 수 있을 것입니다. 번은 현대의 현과 같습니다.

가와구치 아카야마 진야

게이초 15(1610)년에 타다지가 죽자 아들인 타다하루가 그 지배지의 일부를 맡게 되었습니다. 그 땅이 현재의 가와구치시 아카야마였습니다. 타다하루는 칠천석의 지배지를 받아 아카야마 진야를 만들었습니다. 진야는 관공서와 가래(위대한 사람 아래에서 일하는 사람)의 주거로, 지배지의 관리를 하는 것 외에 막부의 관리가 묵는 장소로서 사용되기도 했습니다. 아카야마 진야는 동서 약 1,600m, 남북 약 1,700m이며, 일본 최대의 진야라고 알려져 있습니다. 타다하루는 이 진야를 거점으로 토목공사를 진행해 갔습니다.

대사업 '도네가와의 동진, 아라카와의 서진'

타다하루는 아버지와 같이, 새로운 논을 늘리거나 강 이동을 하는 등, 많은 토목 공사를 하였습니다. 그 중에서도 도네가와(강)와 아라카와(강)의 정비는 타다하루의 가장 위대한 일이라고 할 수 있습니다. 그는 처음 하나였던 강을, 토네가와와 아라카와 2개로 나누었습니다. 도네가와를 동쪽으로, 아라카와를 서쪽으로 이동시킨 것입니다. 이 공사로 인해 홍수의 피해가 줄어들었고, 논의 개발도 진행되었습니다. 게다가 아라카와가 에도의 마을까지 연결됨으로써 사람이나 상품이 오가기 쉬워졌습니다. 또, 아라카와가 상류로부터 고운 모래를 옮겨 온 것으로, 그 모래를 이용한 주물 만들기가 가와구치에서 발전했다고 생각됩니다. 이와 같이 타다하루가 행한 강의 이동은, 에도 막부의 번영을 뒷받침해, 현재에도 계속되는 산업을 남기는 계기가 되었습니다.

이나 씨 주변 사람들

이나 씨에게는 타다하루뿐만 아니라, 우수한 부하도 많이 있었습니다. 에도가와의 개발, 현재의 와라비시 토지정비에도, 타다하루의 부하가 관여했다고 합니다.

호에이 4(1704)년의 후지산의 대분화에 의한 재해로부터의 부흥에도 이나 씨가 관여해서, 여러 공적으로 사람들에게 사랑받았습니다. 그 덕에 10대 계속된 이나 씨가 개역(이나 씨의 권리가 없어져 막부에 토지를 돌려주는 것)이 된 후, 사람들로부터 막부에, 집 재홍을 희망하는 탄원서가 약 50년간에 걸쳐 제출되었습니다.

가와구치뿐만 아니라, 에도의 발전까지 뒷받침한 타다하루의 활약에는 눈을 뗄 수 없네요. 가와구치시에는 아카야마 성터와 해자가, 고노스시에는 이나 타다지·타다하루의 무덤이 남아 있습니다. 또한 이나파크 가와구치와 가와구치 큐폴라 1층에는 타다하루의 동상이 있습니다. 2022년 1월 8일부터 3월 13일까지, 가와구치시 향토 자료관에서 기획전 '이나☆타다하루'가 개최되고 있습니다. 타다하루에 대해 더 자세히 알 수 있는 절호의 기회입니다. 꼭 방문해보세요.

[이나 타다하루전] (2022)년 1월 8일(토)부터 3월 13일(일)

가와구치시 향토 자료관

주소 : 〒334-0002 가와구치시 하토가야 혼초 2-1-22

TEL:048-283-3552, HP : <http://www.kawaguchi-bunkazai.jp/kyoudo/>



みんなのための「みんななかまバス」

皆さん、川口市の「みんななかまバス」というコミュニティバスを知っていますか。大人(中学生以上)は100円ですが、小学生・障がい者(大人)は50円、障がい者(小学生)は30円、未就学児は無料で乗ることができます。市内のいろいろなところに連れて行ってくれます。路線は全部で6つあって、ほぼ市内全域をカバーしています。みんななかまバスの2つの路線を乗り継いで行く場合には、運賃の割引が受けられます。その方法は、最初に乗ったバスで運賃を支払う際、乗務員に「乗り継ぐ」ことを伝えます。そして「乗継割引券」を受け取り、バスを降ります。その後、2つ目の路線バスに乗り、そのバスを降りるとき、運賃箱に「乗継割引券」と割引運賃を入れます(現金のみ)。詳細な路線マップは川口駅前行政センターなどで入手できます。市内の主だった場所を通っていたり、「五右衛門橋」や「源左衛門新田」といった歴史を感じさせるような名前の停留所もあり、それを見ているだけでも結構面白いです。10月中旬の天気のよい日に「みんななかまバス」を乗り継ぎ、半日の市内巡りに行きましたので、そのときの様子を紹介します。

最初は、午後2時35分(土曜日ダイヤ)に川口駅西口の川口総合文化センター・リリア前から発着している「2番青木線」に乗りました。同じ場所から、「1番川口・鳩ヶ谷線」も出ており、緑と赤の2色の丸い標識が目印です。バスに乗る時のステップは段差が低く、車内も広々としていました。出発する時、座席がほぼすべて埋まっており、発車間際に乗り込んできた老夫婦も「間に合ってよかったね」と、とてもうれしそうでした。「2番青木線」は川口警察署や青木町平和公園、SKIPシティといった、市内の各所を巡っています。青木町平和公園やSKIPシティで降りて、散歩したり、映画やプラネタリウムを見るのもいいですし、特にこれといった目的がなくても、車窓から外の景色を眺めているだけで気晴らしになるかもしれません。私は、乗り継ぎのために、川口市立医療センターでいったんバスを降りました。川口市立医療センターの隣には川口市立グリーンセンターがあるので、お弁当を持って行ってピクニックをするのも楽しそうです。

2つ目のバスは「5番戸塚・安行循環」に乗りました。この路線は、埼玉高速鉄道の新井宿駅や川口緑化センターなどを巡っています。窓の外の風景は、最初に乗った「2番青木線」とは少し異なり緑が多く、新鮮な印象でした。川口緑化センターで途中下車して、見学をするのもよいと思いました。私はかなり長い間乗ったましたが、途中から乗ってきて、2つか3つのバス停分だけ乗って途中で降りていく人も結構いました。このバスは地域に定着して、上手に利用されているのだと感じました。

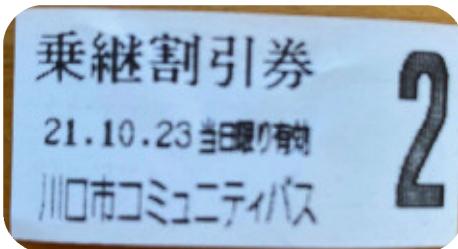
とても安い料金で誰でも利用できる「みんななかまバス」。川口駅だけではなく、鳩ヶ谷駅や戸塚安行駅なども通っています。あらかじめ下調べをしておいて、上手に乗り継いで行ければ、これまでに行ったことのない新しい川口に、出会うことができるかもしれませんね。

※路線や時刻表が変更になることもありますので、利用する際には必ず事前に確認するようにしてください。



“Minna nakama Bus” for Community

Do you know Kawaguchi City's community bus called “*Minna nakama bus*”? With fares of ¥100 for adult (Junior High Schooler~), ¥50 for Elementary Schooler and disabled person (adult), ¥30 for disabled Elementary Schooler, free for Pre-schooler, it takes you to various places in the city. There are 6 routes in all, covers most of the area in the city. There is a fare deduction service for passengers when you make a connection with another route. To receive that service, you have to tell the conductor when you pay the fare at your destination, that you will take another route after getting off that bus. Then the conductor will give you a “deduction ticket” before you get off. With that ticket, take another route's bus, put the ticket and deducted fare into a fare box (cash only) at your destination. You can get a route map at Kawaguchi-Ekimae Administrative Services Center, etc. Each route contains city's major places, also, you can enjoy the bus ride just by spotting bus stops with the names which reminiscent of the olden days, such as “*Goemon-bashi*”“*Genzaemon-shinden*”, etc. On a fine day in October, I took *Minna nakama* buses to set out on a half-day tour of the city. Here is a report from that tour.



First, I took a bus “No.2, Aoki route” from Kawaguchi City General Culture Center LILIA on 2:35 pm (Saturday timetable). “No1. Kawaguchi/Hatogaya route” bus is also leave from the same stop. Please find a green and red round bus-stop sign there. The steps of the bus have almost no gaps when you get on, and the inside was spacious. When the bus leaves, most of the seats were occupied. An elderly couple, looked happy when got on the bus at the last moment, saying “So lucky that we did not miss this bus”. Buses on the “No.2 Aoki route” stops at “Kawaguchi Police Station”, “Aokicho Heiwa Kouen”, “SKIP CITY” and other major facilities in the city. It is an idea to get off at Aokicho Heiwa Kouen or SKIP CITY to have a nice walk around or watch movies, or visit planetarium will also be nice. With no particular destination on your mind, the scenery from bus window may unwind your stress. I got off at Kawaguchi City Iryou Center (municipal medical center) to change buses there. Neighboring to the municipal medical center is a municipal Green Center where seems to be a nice place to bring lunch to have a picnic.



Next bus I took was “No. 5 Tozuka/Angyo loop line”. This route goes round SR Araijuku Station, Kawaguchi Ryokuka Center, etc. The view from the window has a little changed from that from No.2 Aoki route bus, with plenty of greenery which gave me a fresh impression. I suppose it was one thing to get off at Kawaguchi Ryokuka Center to tour around inside. Contrary to my seat-warming for a long distance, some of the passengers were got off only after 2 or 3 stops. I got the impression that this bus has been welcomed in the community and people are making the most of it.

Fare is considerably cheap and passenger-friendly “*Minna nakama bus*”. Their routes include *Hatogaya* station, *Tozuka*-*angyo* station, etc. Check the route before you get on and if the connection goes well, you might be able to find new scenery in Kawaguchi City that you have never noticed.

※Routes and operation schedule may be changed. Please check them before use each bus route.



为大家服务的“みんななかまバス”

大家是否知道名为“*みんななかまバス*（大家都是好伙伴巴士）”的川口市的社区巴士？车费为：成人（中学生以上）100日元，小学生和残疾人（成人）50日元，残疾人（小学生）30日元。学龄前儿童可以免费乘坐，巴士会带你到市内的许多地方去。这种巴士总共有六条路线，几乎覆盖了市内的所有区域。如果你换乘两条不同路线的“*みんななかまバス*”前往目的地的话，票价可以打折。做法是，你在所乘坐的第一辆巴士上支付车费时告诉司机你要“转车”。这样你就会得到一张“转乘优惠券”，然后下车。接着乘坐第二辆巴士，当你要下车时，将“转乘优惠券”和优惠后的车费放入票箱（只收现金）。详细的路线图可以从川口站前行政中心等地方获得。这些巴士贯穿了市内的主要场所，还有一些站点的名字，如“五右卫门桥”和“源左卫门新田”等，能让

你感受到历史的气息。单单看这些名字就很有趣。在10月中旬的一个天气晴朗的日子里，我换乘不同路线的“みんななかまバス”，进行了市内半日游。那就让我来介绍一下当时的情况吧。

我在下午2点35分（星期六的时间表）先坐上了“2号青木线”，它的起讫站点在川口站西口的川口综合文化中心LILIA前。还有“1号川口-鸿谷线”也是从同一地点出发，这两条路线的巴士分别用绿色和红色的圆形标志来做记号。我发现上车时的台阶的高度差很小，车内也很宽敞。当巴士要出发时，几乎所有的座位上都有人，还有一对老年夫妇在巴士即将离开时上了车，他们非常高兴，说“赶上了，太好了”。“2号青木线”通往市内的各个地方，如川口警察署、青木町和平公园和SKIP CITY等。你可以在青木町和平公园或SKIP CITY下车，然后散散步，看看电影或者参观一下天文馆也不错。即使你没有特定要去的目的地，单单是眺望车窗外的景色也许就能让你散散心。为了转车，我先在川口市立医疗中心下了车。川口市立医疗中心的旁边是川口市立绿色中心。带上便当去那里野餐也一定很有趣。



我乘坐的第二辆巴士是“5号户塚-安行循环”。这条线路通往埼玉高速铁路的新井宿站和川口绿化中心等地方。我感觉窗外的风景与我乘坐第一辆巴士：“2号青木线”时有些不同，有很多绿色植物，给人一种新鲜感。我想，在川口绿化中心中途下车，四处看看也是个好主意。虽然我在这趟车上乘坐了相当长的时间，但是也有好多人中途上车后只坐了两三站又中途下车了。我觉得这条线的巴士已经在社区中扎根，并且被很好地利用起来了。

“みんななかまバス”是谁都能乘坐的，票价非常便宜的巴士。它们不仅开往川口站，还开往鸿谷站和户塚安行站等。如果事先做好了调查，去的时候转车衔接得好的话，我想你可能会遇见一个你以前从未去过的新川口吧。

※路线和时间表可能会发生变化，所以你要乘坐这些巴士时，请务必要事先确认好。



“Minna nakama bus” dành cho mọi người

Mọi người có biết xe bus cộng đồng có tên gọi là “Minna nakama bus” của thành phố Kawaguchi không? Đối với người lớn (từ học sinh cấp 2 trở lên) là 100 yên, học sinh tiểu học, người khuyết tật (là người lớn) là 50 yên, người khuyết tật (là học sinh tiểu học) là 30 yên, trẻ em mầm non không mất tiền là có thể lên xe và được đưa đến rất nhiều nơi trong thành phố. Có tất cả 6 tuyến đường, bao quanh hầu hết mọi khu vực trong thành phố. Trong trường hợp đối giữa hai tuyến đường của Minna nakama bus, bạn sẽ được giảm tiền vé. Để được giảm giá, khi trả tiền vé xe bus đã lên đầu tiên, hãy nói với người lái xe “nori-tsugu” (Tôi sẽ đổi tuyến). Sau đó, bạn sẽ nhận “vé giảm giá đổi tuyến” và xuống xe bus. Tiếp theo, bạn lên xe bus ở tuyến đường thứ 2, khi xuống xe bus này, hãy cho “vé giảm giá đổi tuyến” và tiền vé đã giảm vào hộp thu tiền (chỉ cho tiền mặt). Bản đồ các tuyến đường chi tiết có thể được nhận tại Trung tâm hành chính trước ga Kawaguchi, v.v. Xe bus chủ yếu đi qua các địa điểm chính trong thành phố, cũng có những điểm đỗ xe bus có tên gọi nhắc lịch sử như “Cầu Goemon”, “Genzaemon Shinden”, chỉ cần nhìn thôi cũng thấy khá thú vị. Vào ngày thời tiết đẹp giữa tháng 10, khi chuyển tuyến sang Minna nakama bus, tôi đã di vòng quanh thành phố trong nửa ngày, và tôi sẽ giới thiệu với các bạn về hành trình hôm đó.



Đầu tiên, tôi lên “tuyến Aoki số 2” xuất phát từ Trung tâm văn hóa tổng hợp Kawaguchi LILIA ở cửa Tây ga Kawaguchi vào lúc 2h35p chiều (theo giờ xe bus ngày thứ bảy). Từ bến này, “tuyến Kawaguchi - Hatogaya số 1” cũng xuất phát, có biển báo tròn hai màu xanh đỏ là cột mốc. Đặc thèm khi lên xe bus có độ cao thấp, trong xe cũng khá rộng. Khi xe xuất phát, hầu như các ghế trên xe đã kín, có hai vợ chồng già vừa kịp lên xe trước khi xe xuất phát rất hò hỏi nói: “Lên kịp xe bus, may quá!”. Tuyến Aoki số 2 sẽ đi qua một số điểm trong thành phố như sở cảnh sát Kawaguchi, công viên hòa bình Aokichou, khu Skip CITY, v.v. Nếu xuống xe ở công viên hòa bình Aokichou và khu Skip CITY để đi dạo hay xem phim, xem mô hình vũ trụ thì thật tuyệt, và nếu không có điểm đến đặc biệt như vậy, chỉ cần nhìn ngắm phong cảnh bên ngoài từ cửa sổ xe cũng có thể cảm thấy rất thoải mái. Vì muốn chuyển sang tuyến khác, tôi đã xuống xe tại trung tâm y tế thành phố Kawaguchi. Cảnh trung tâm y tế thành phố Kawaguchi là trung tâm xanh thành phố Kawaguchi, các bạn có thể mang cơm hộp và píc-níc tại đây cũng rất vui.

Tuyến xe bus thứ hai tôi lên là “tuyến Tozuka Angyo Junkan số 5”. Tuyến này sẽ đi vòng qua ga Araijuku thuộc Đường sắt cao tốc Saitama, Trung tâm cây xanh Kawaguchi. Phong cảnh nhìn ra bên ngoài từ cửa sổ so với tuyến Aoki số 2 có chút khác biệt bởi có nhiều cây xanh, đem lại ánh tượng tươi mới. Tôi nghĩ rằng nếu xuống xe giữa chừng tại Trung tâm cây xanh Kawaguchi và đi thăm quan thì thật hay. Tôi ngồi trên xe bus khá lâu, nhưng cũng có khá nhiều người lên xe giữa chừng rồi xuống xe chỉ sau 2 hoặc 3 bên xe bus. Tôi có cảm giác đây là chuyến xe bus dành cho người dân địa phương và đang được mọi người sử dụng khá quen thuộc.



“Minna nakama bus” là xe bus có mức giá rất rẻ mà ai cũng có thể sử dụng. Chuyến xe bus này không chỉ đi qua ga Kawaguchi, mà còn qua ga Hatogaya, ga Tozuka Angyo. Nếu bạn tìm hiểu trước khi đi, chuyển tiếp giữa các tuyến xe bus thuận lợi, có thể bạn sẽ có cơ hội gặp được một thành phố Kawaguchi mới mà bạn chưa từng thấy trước đây.

※Tuyến đường và giờ xe bus có thể có sự thay đổi, do đó hãy xác nhận cẩn thận trước khi sử dụng xe bus.



모두를 위한 ‘민나나카마 버스’

여러분은 가와구치시의 ‘민나나카마 버스’라는 커뮤니티 버스를 알고 있습니까? 성인(중학생 이상)은 100엔이지만, 초등학생, 장애인(어른)은 50엔. 장애인(초등학생)은 30엔, 미취학아동은 무료로 탈 수 있고, 시내 곳곳에 데려다 줍니다. 노선은 전부 6개가 있으며, 거의 시내 전 지역을 커버하고 있습니다. 민나나카마 버스의 2개의 노선을 갈아타고 갈 경우에는 운임을 할인 받을 수 있습니다. 그 방법은 처음에 탄 버스에 운임을 낼 때, 승무원에게 ‘환승’을 알려줍니다. 그리고 ‘승계 할인권’을 받아 버스에서 내립니다. 그후 2번째 노선 버스를 타고 그 버스에서 내릴 때 운임상자에 ‘승계 할인권’과 할인운임을 넣습니다(현금만). 자세한 노선 지도는 가와구치 역앞 행정센터 등에서 구할 수 있습니다. 시내의 주된 장소를 지나거나 ‘고에몬바시(다리)’나 ‘겐자에몬신덴’이라고 하는 역사를 느끼게 하는 이름의 정류장도 있어, 그것을 보는 것 만으로도 꽤 재미있습니다. 10월 중순의 날씨가 좋은 날에 ‘민나나카마 버스’를 갈아타며 반나절 동안 시내를 돌아다녔는데, 그 때의 모습을 소개합니다.

처음에는 오후 2시 35분(토요일 시간표)에 가와구치역 서쪽출구 가와구치종합문화센터 리리아 앞에서 출발하는 ‘2번 아오키선’을 탔습니다. 같은 장소에서 ‘1번 가와구치 · 하토가야선’도 출발하는데 녹색과 빨간색 2색의 둥근 표지판이 표시입니다. 버스를 탈 때 계단의 높이가 낮고, 차 안도 넓었습니다. 출발할 때, 좌석이 거의 다 차 있었고, 출발 직전에 올라 탄 노부부도 “시간에 잘 맞춰 왔네”라며 매우 기쁜 것 같았습니다. ‘2번 아오키선’은 가와구치 경찰서와 아오키초 평화공원, SKIP 시티 등, 시내 각처를 순환합니다. 아오키초 평화공원이나 SKIP 시티에서 내려 산책하거나 영화나 플라네타리움을 보는 것도 좋고, 특별히 이것이라고 하는 목적이 없어도 차창에서 밖의 경치를 바라보는 것만으로도 기분이 좋아질지도 모릅니다. 저는 환승을 하기 위해 가와구치시립 의료센터에서 일단 버스에서 내렸습니다. 가와구치시립 의료센터

옆에는 가와구치시립 그린센터가 있어서 도시 락을 싸가지고 가서 피크닉을 하는 것도 즐거울 것 같습니다.



두 번째 버스는 ‘5번 도쓰카 · 안교순환’을 탔습니다. 이 노선은 사이타마 고속 철도 아라이주쿠 역과 가와구치 녹화센터 등을 순환합니다. 창 밖의 풍경은 처음에 탔던 ‘2번 아오키선’과는 조금 다르게 푸르름이 많고 신선한 느낌이었습니다. 가와구치 녹화센터에서 도중하차를 하여 견학하는 것도 좋다고 생각합니다. 저는 꽤 긴 시간 차를 타고 있었으나 중간에 타서 2개나 3개의 버스 정류장만 타고 중간에 내리는 사람도 꽤 많았습니다. 이 버스는 지역에 정착되어 잘 이용되어지고 있다고 느꼈습니다.

매우싼 요금으로 누구든지 이용할 수 있는 ‘민나나카마 버스’. 가와구치역뿐만 아니라 하토가야역이나 도쓰카 안교역 등도 다니고 있습니다. 미리 조사한 다음에 잘 갈아타고 가면 지금까지 가본 적이 없는 새로운 가와구치를 만날 수 있을지도 모르겠네요.

※노선이나 시간표가 변경될 수도 있으니 이용하실 때는 반드시 사전에 확인하시기 바랍니다.

きめ 木の芽

皆さん、うな重はお好きですか。ホクホクの白米に、甘辛いタレが絡んだうなぎがのった料理です。うなぎの上には緑鮮やか
な小さな葉が飾られていることがあります。これは、ミカン科の山椒の若葉です。山椒の若葉を「木の芽」と呼びます。独特の爽
やかな香りとほろ苦さがあり、日本料理に「あしらい」として添えられる食材です。「あしらい」とは、料理を一層引き立てせる目的で飾り付けされる野菜類や花の総称です。



山椒、本来は日本各地の山野に自生しています。春に新葉を開き黄緑色の小花を房状に咲かせ、夏には緑色の果実をつけ、秋には黒い種をこぼします。日本古来の香辛料で、すでに奈良時代には使われていたそうです。山椒の利用部分によって、呼び方が変わります。

木の芽:山椒の若葉。料理に添えられることが多いが、和え物や佃煮として食べることもある。

花山椒:雄花のつぼみ。黄色い小さな花が特徴で、お吸い物や佃煮、また薬味として使用される。

青山椒:未熟な果実。ちりめん山椒などに使われることが多い。

実山椒:熟した果実。佃煮としてはもちろん、漬物としても使われる。

粉山椒:成長が進み硬くなり、皮が割れた実山椒の「皮」を粉末状にしたもの。香辛料や薬味として使われ「ジャパニーズペッパー」と呼ばれる。



この山椒の若葉である「木の芽」は、埼玉県の特産品です。特に川口市の神根地区などで食用として栽培されるようになり、東京市場への出荷のほとんどを占めています。本来、新緑の季節のみ楽しむことができる木の芽ですが、独自の「軟化栽培」技術を利用して、年間を通して生産しています。軟化栽培とは、野菜を遮光下で温度と湿度をかけて、柔らかく育てる栽培方法です。古くから江戸・東京に食材を出荷してきた、この地域独特の技術だそうです。

「木の芽」は、うなぎの蒲焼き、カレイの煮物や焼き魚、タケノコの煮物のほか、豆腐料理にも添えられることが多いです。名脇役の木の芽ですが、ここでは木の芽をメインとした料理を紹介します。

「ピリッとおいしい木の芽の佃煮」

材料:木の芽・醤油・みりん

作り方:①木の芽と水を鍋に入れ、30分程度ゆでます。水の代わりに昆布だしで煮ても美味しいできます。

②醤油、みりんを加えて、じっくり煮詰める。

山椒の若葉「木の芽」は食用として料理に使われますが、温かいごはんに乗せて食べたり、お酒のおつまみとして食べたり、いろいろな組み合わせがありそうですね。

このように、山椒の成長過程や利用部分によって、いろいろな使い方があります。寒い冬はまだまだ続きますが、春の日和が待ち遠しい頃、心温まる料理に木の芽を添えて、食事を楽しんでみませんか。

参考

さいたま農林振興センター・さいたま農業改良普及協議会発行パンフレット

「埼玉県特産 木の芽 ~その故郷を訪ねて~」

埼玉県 農林部 さいたま農林振興センター 地域支援担当(ホームページ)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0901/sai-kinome.html>



Kinome - Young Japanese Pepper Tree Leaves

Do you like “*Unaju*”? It is a dish of boiled and roasted eel coated with salty sweet sauce on freshly boiled rice. Brilliant small green leaves are often garnished on eel. They are young leaves of Japanese pepper tree, in the rutaceous family. With its fresh aroma and bittersweet flavor, *Kinome* is often used as “*Ashirai*-garnish” in Japanese cuisine. “*Ashirai*” includes vegetables and edible flowers that added to dishes to enhance the dramatic effect on the presentation.



Sanshou, Japanese pepper trees, are originally grow wild in mountainous areas throughout Japan. In spring, they open young leaves and tiny yellow-green flowers in bunches, and bear green fruits in summer, shed black seed in autumn. One of the traditional spices in Japan with which history can be dated back to the Nara period. *Sanshou* has different names in accordance with its part.

Kinome : Young leaves of *Sanshou*. Often used as a decoration for a dish, also become an ingredient for *Aemono* (seasoning-dressed dishes) and *Tsukudani* (soy sauce-simmered dish).

Hana* (flower)-*zanshou : Bud of male flower. People garnish *Osuimono* (soup) with its distinguished tiny, yellow flower. Also used as an ingredient for *Tsukudani* and as a condiment.

Ao* (green)-*zanshou : Unripe fruit. Often make *Chirimen-zanshou* cooked with *Chirimen*, (boiled and dried baby sardine).

Mi* (fruit)-*zanshou : Fully ripened fruit. Aside from making *Tsukudani*, it is good for making pickles.

Kona* (powdered)-*zanshou : Grown fruit becomes hard like a shell. Powdered “coat” of this hardened pepper tree fruit is called *Kona-zannshou*. It is also called simply as “Japanese pepper”, used as spice or condiment.



Kinome young leaves of Japanese pepper tree is the staple product of Saitama Prefecture. Particularly, most edible *Kinome* that was started to cultivate in *Kamine* area of Kawaguchi City is shipped to Tokyo market. Generally, *Kinome* is a feast which you can enjoy only during the season of fresh green foliage, however, they produce it all year round by employing their unique “Blanching culture” technique. It is a technique to grow soft-texture vegetables by cutting off the sunlight and controlling the temperature and humidity. This is one of the signature techniques of this area with a long history of shipping food products to Edo, or Tokyo.

Kinome is often added to such dishes as grilled eel, stewed flounder, stewed bamboo shoot, and sometimes to dishes of *Tofu* cuisine. It usually plays the role of an excellent supporting actor, so, today, I am going to give you a recipe by turning a spotlight on *Kinome*.

“Peppery tasty *Kinome Tsukudani*”

Ingredients : *Kinome*, Soy sauce, *Mirin* (sake-seasoning)

Step : ① Boil *Kinome* for about 30minutes. Instead of boiled water, you may use stock made from kelp.

② Add soy sauce, *Mirin*, then boil the stock down.

Kinome young leaves are quite edible. Good to put them on a hot boiled rice, also you can enjoy it as a side dish when you drink. Try and find an exquisite combination yourself.

As you can see, every stage of growth and part of *Sanshou* has its use. Midwinter cold will stay with us for a while, but while yearning for the spring warmth, is not it a good idea to have some *Kinome* on your heart-warming dish and enjoy your meal?

Reference

Leaflet published by Saitama Promotion Center of Agriculture and Forestry •Saitama Council of Agriculture Extension “Local Specialty of Saitama Prefecture *Kinome* ~Visiting its home~”

Regional Support Desk (website), Saitama Promotion Center of Agriculture and Forestry, Agriculture and Forestry Department, Saitama Prefecture <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0901/sai-kinome.html>



木之芽

大家喜欢鳗重（鳗鱼盒饭）吗？这是一道将浇了甜辣酱的鳗鱼放在热腾腾的白米饭上而做成的菜肴。在鳗鱼上有时还用一片鲜绿色的小叶子做装饰。这是属于柑橘科的山椒的嫩叶。山椒的嫩叶被称为“木之芽”。它们具有独特的清爽香气和苦涩味道，在日本料理中作为“装饰品”，是一种被用来做点缀的食材。“装饰品”是指用于装饰在菜肴上，以更进一步提高菜肴的档次的蔬菜类和花卉的总称。

山椒原本自然生长在日本各地的山野中。它在春天长出新叶，开出一族族黄绿色的小花，在夏天结出绿色的果实，在秋天（果实裂开）露出黑色的种子。它是一种古老的日本香料，据说在奈良时代就已经开始使用。根据山椒的使用部分的不同，名称会发生变化。

木之芽:山椒的嫩叶。它多用于点缀菜肴，但也作为日式凉拌菜或佃煮（用酱油等炖煮的食物）来食用。

花山椒:雄花的花苞。它的特征是黄色的小花，可以用来做汤、做佃煮，也可以用作调味品。

青山椒:未成熟的果实。它经常用来制作山椒杂鱼等菜肴。

实山椒:成熟的果实。当然它可以用来做佃煮，也可以用来做腌菜。

粉山椒:用经过成长后硬化的、有裂纹的山椒果实的“皮”磨成的粉末。

它可以作为香料或调味品来使用，被称为“日本胡椒”。

被称为“木之芽”的山椒的嫩叶是埼玉县的特产。特别是在川口市的神根等地区，人们种植山椒做为食用，并占据东京市场出货量的绝大部分。本来只有在新绿季节才能品尝到的木之芽，但是该地区在使用独创的“软化栽培”技术之后，可以一整年都生产。软化栽培是一种通过为蔬菜遮光并调节温度和湿度来培育脆嫩的蔬菜的栽培方法。据说这是该地区特有的技术，自古以来，该地区一直向江户即东京运送食材。

“木之芽”除了用于蒲烧鳗鱼、炖煮比目鱼、烤鱼和炖煮竹笋，还经常用于豆腐菜肴。虽然木之芽是出色的菜肴中的配角，但在这里介绍一道以木之芽为主要材料的菜肴。

“辣味可口的木之芽佃煮”

材料:木之芽、酱油、味淋（日本调味料）

做法:①将木之芽和水放入锅中，大约煮30分钟左右。用昆布高汤代替水来煮味道也很好。

②加入酱油和味淋，小火慢慢煮至。

山椒的嫩叶“木之芽”以食用为目的被用于各种菜肴中，可以放在热饭上吃，也可以作为下酒菜等来吃，可以说有各种各样的点缀方式吧。

正如上面所介绍的，根据生长过程和使用部分的不同，山椒有许多不同的用法。寒冷的冬天还要持续下去。当我们期待着春天里的艳阳天时，何不来一盘点缀着木之芽的暖人心扉的菜肴，享受一下美食呢？

参考

埼玉农林振兴中心、埼玉农业改良普及协议会出版的宣传册
埼玉县农林部 埼玉农林振兴中心 地区支援担当（主页）

“埼玉县特产木之芽——访问其故乡——”

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0901/sai-kinome.html>



Kinome - Lá non của cây sansho

Các bạn có thích món una-jyu không? Đó là món ăn gồm có lươn đã được tẩm nước sốt ngọt cay, đặt lên cơm trắng nóng dẻo. Ở trên miếng lươn thường có một chiếc lá nhỏ xanh để trang trí. Đó là lá non của cây sansho, thuộc dòng họ Rutaceae. Lá non của cây sansho gọi là “kinome”. Nó có hương thơm dễ chịu và vị cay nhẹ rất đặc trưng, là loại nguyên liệu được dùng như một loại “ashirai” của món ăn Nhật Bản. “Ashirai” là thuật ngữ chỉ các loại hoa và rau dùng để trang trí cho món ăn, nhằm mục đích tăng thêm độ hấp dẫn của món ăn.

Cây sansho mọc tự nhiên tại khu vực đồi núi, nông thôn ở nhiều vùng của Nhật Bản. Vào mùa xuân, cây sẽ đậm chồi và nở hoa nhỏ màu xanh vàng mọc thành chùm, đến mùa hè, cây sẽ ra quả màu xanh và bung ra hạt màu đen vào mùa thu. Đây là một loại hương liệu cổ của Nhật Bản được sử dụng từ thời Nara. Tùy theo bộ phận sử dụng của sansho sẽ có cách gọi khác nhau.



Kinome: lá non của sansho. Lá non thường được thêm vào các món ăn, cũng có thể chế biến như một món trộn hay món tsukuda-ni.

Hanasansho: nụ của hoa đực. Với đặc trưng là hoa nhỏ màu vàng, người ta thường dùng trong các món súp, món tsukuda-ni hay gia vị để chế biến.

Aosansho: quả sansho còn xanh. Sử dụng khá nhiều trong món chirimen-sansho.

Mizansho: quả sansho đã chín. Không chỉ sử dụng trong các món tsukuda-ni, còn được sử dụng trong các món ngâm chua tsuke-mono.

Kosansho: sau khi chín già, quả sẽ cứng lại, phần “vỏ” của quả sansho đã bị vỡ sẽ được nghiền thành dạng bột mịn. Kosansho còn được gọi là “hạt tiêu Nhật Bản” và được sử dụng như một loại gia vị, hương liệu.

“Kinome”, lá non của sansho, là một sản phẩm đặc trưng của tỉnh Saitama. Nó được trồng phổ biến ở quận Kamine, thành phố Kawaguchi để dùng trong thực phẩm, và phần lớn lượng hàng được cung cấp cho thị trường Tokyo. Vốn dĩ, kinome chỉ có thể đậm chồi này lọc vào mùa xuân, tuy nhiên, do sử dụng kỹ thuật “nanka-sanbai” đặc trưng, người ta có thể thu hoạch kinome quanh năm. Nanka-sanbai là kỹ thuật nuôi trồng cây bằng việc điều chỉnh nhiệt độ và độ ẩm dưới bóng râm để cây có thể phát triển mềm hơn bình thường. Bằng kỹ thuật độc đáo của khu vực này, người ta đã có thể thường xuyên cung cấp nguyên liệu cho các vùng Edo, Tokyo từ xa xua.



“Kinome”, ngoài sử dụng kèm với các món lươn nướng kiểu kabayaki, cá bơn hầm, cá bơn nướng, củ măng hầm, còn thường được dùng kèm với các món đậu phụ. Mặc dù kinome thường đóng vai trò hỗ trợ rất tốt, nhưng sau đây, chúng tôi sẽ giới thiệu một món ăn sử dụng kinome là nguyên liệu chính.



“Món tsukuda-ni dùng kinome tươi, uớp cay”

Nguyên liệu: Kinome, tương sho-yu, rượu mirin

Cách làm: 1. Cho kinome và nước vào chảo, đun trong khoảng 30 phút. Nếu dùng nước hầm tảo bẹ konbu thay cho nước thì món ăn cũng có thể ngon.

2. Thêm tương sho-yu, rượu mirin vào và đun sôi đèn khi cô đặc lại.

Lá non sansho, kinome được sử dụng như một món ăn, tuy nhiên, có rất nhiều cách ăn khác nhau như cho lên cơm nóng hoặc ăn như món nhâm uống rượu.

Theo đó, tùy theo từng giai đoạn trưởng thành và bộ phận sử dụng, sansho có rất nhiều cách sử dụng khác nhau. Mùa đông lạnh vẫn đang tiếp tục, mong chờ mùa xuân ấm áp, chúng ta hãy cùng thưởng thức bữa ăn sau khi thêm kinome vào các món ăn ấm nóng nhé.

Nguồn tham khảo:

Sách hướng dẫn do Hiệp hội phô biến và cải tiến nông nghiệp Saitama, thuộc Trung tâm thúc đẩy nông lâm nghiệp Saitama phát hành. “Đặc sản tỉnh Saitama Kinome ~ Ghé thăm quê hương tôi~”

Tỉnh Saitama, Phòng nông lâm, Trung tâm thúc đẩy nông lâm nghiệp Saitama, Phụ trách hỗ trợ khu vực (trang web)
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0901/sai-kinome.html>



나무 순

여러분, 장어덮밥을 좋아하십니까? 따끈따끈한 훈 쌀밥에 달면서도 쭉쭉한 양념이 곁들여진 요리입니다. 장어 위에는 녹색의 신선한 작은 잎이 장식되어 있는 것이 있습니다. 이것은 운향과의 산초의 어린 잎입니다. 산초의 어린 잎을 ‘나무 순’이라고 부릅니다. 독특한 상쾌한 향과 쌈쌀한 맛이 있어 일본요리에 ‘곁들임’으로 곁들여지는 식재료입니다. ‘곁들임’이란 요리를 한층 돋보이게 할 목적으로 장식되어지는 채소류나 꽃의 총칭입니다.

산초, 본래는 일본 각지의 산이나 들에 자생하고 있습니다. 봄에 새잎이 피고 황록색의 작은 꽃을 송이모양으로 피우고, 여름에는 녹색의 열매를 맺으며, 가을에는 검은 씨를 떨어뜨립니다. 일본 전통의 향신료로 이미 나라시대에는 사용되었다고 합니다. 산초의 이용 부분에 따라 호칭이 바뀝니다.

나무 순: 산초의 어린 잎. 요리에 곁들이는 경우가 많으나 나물이나 초쿠다니로 먹을 때도 있다.

꽃산초: 수꽃 봉우리. 노란색 작은 꽃이 특징으로, 국이나 초쿠다니 또는 양념으로 사용된다.

청산초: 익지 않은 열매. 치리멘 산초 등에 사용되는 경우가 많다.

산초열매: 익은 열매. 초쿠다니는 물론 절임으로도 사용된다.

산초가루: 성장해서 딱딱하게 되어 껍질이 갈라진 산초 열매의 ‘껍질’을 분말 상태로 만든 것.

향신료나 양념으로 사용되며 ‘일본 후추’로 불린다.



이 산초의 어린 잎인 ‘나무 순’은 사이타마현의 특산품입니다. 특히 가와구치시의 가미네지구 등에서 식용으로 재배하게 되어, 도쿄시장으로 출하하는 것 중의 대부분을 차지하고 있습니다. 본래, 신록의 계절에만 즐길 수 있는 나무 순이지만, 독자의 ‘연화재배’기술을 이용하여 일년내내 생산하고 있습니다. 연화재배란 채소를 차광하에 온도와 습도를 조절하여 부드럽게 키우는 재배방법입니다. 옛날부터 에도·도쿄에 식재료를 출하해 온, 이 지역의 독특한 기술이라고 합니다.

‘나무 순’은 장어구이, 가자미 조림이나 생선구이, 죽순 조림 외에 두부요리에도 곁들이는 경우가 많습니다. 명조연의 나무 순이지만, 여기에서는 나무 순을 메인으로 한 요리를 소개하겠습니다.

“짭짜롬하고 맛있는 나무 순의 초쿠다니”

재료:나무 순, 간장, 미림

만드는 법: ①나무 순과 물을 냄비에 넣고 30분정도 끓입니다. 물 대신에 다시마 국물로 끓여도 맛있게 됩니다.

②간장, 미림을 넣고 천천히 조립니다.



산초의 어린 잎 ‘나무 순’은 식용으로 요리에 사용되지만 따뜻한 밥에 올려 먹거나 술 안주로 먹는 등, 여러가지 조합이 있는 것 같습니다.

이와같이, 산초의 성장과정이나 이용부분에 따라 여러가지 사용방법이 있습니다. 추운 겨울은 아직 계속되지만, 봄날이 기다려 질 때, 마음이 따뜻해지는 요리에 나무 순을 곁들여 식사를 즐겨보시지 않겠습니까?

참고

사이타마농림진흥센터 · 사이타마농업개량보급협의회 발행 팸플릿
사이타마현 농림부 사이타마농림진흥센터 지역지원담당(홈페이지)

[사이타마현 특산 나무 순 ~그 고향을 방문하여~]

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0901/sai-kinome.html>

かわぐちし ぱらんていあにほんごきょうしふうかい
川口市のボランティア日本語教室紹介
かわぐちこくさいゆうこうがくいん
～川口国際友好学院～

かわぐちし かわぐちし く がいくじん ぱらんていあ
川口市には、川口市などで暮らす外国人にボランティア
にほんご おし にほんごきょうしふ じゅうはちきょうしふ こんかい
が日本語を教える日本語教室が18教室あります。今回
かわぐちこくさいゆうこうがくいん しゅさい
は、そのうちの「川口国際友好学院」を取材しました。



かつどう がいよう
＜活動の概要＞
かわぐちこくさいゆうこうがくいん おしゅうど ようび かわぐちえきまえ きゅ
川口国際友好学院は、毎週土曜日に川口駅前のキュ
ぼ えむよんかい にほんごきょうしふ かいさい にほんごきょうしふ
ボ・ラM4階で日本語教室を開催しています。日本語教室
さんかにんずう じゅうがつちゅうじゅん しゅざい ひ がくしゅうしゃ ぱら
の参加人数は、10月中旬に取材した日は、学習者とボラ
んていあ あ さんじゅうにんじやく しんがたころな
ンティアを合わせて30人弱でした。しかし、新型コロナ
ういるす かんせんかくだいまえ さんじゅうにんじよう おおとき ごじゅうにん
ウイルスの感染拡大前は30人以上、多い時では50人
いじょう かた さんか へや はい
以上の方が参加し、部屋に入りきらなかったこともあったと
のことです。

にほんごがくしゅうしえんいがい にほんごはっぴょうかい さく
また、日本語学習支援以外にも、「日本語発表会」、「作
ぶんしゅうさくせい しゃかいかんがく とく おこな
文集作成」、「社会科見学」などの取り組みも行っています
ざんねん とく しんがた
しかし、残念ながら、これらの取り組みは、新型
ころなういるす えいきょう しゅざい びじてん きゅうし
コロナウイルスの影響で取材日時点には休止していました。

さんか がくしゅうしゃ ぱらんていあ
＜参加している学習者・ボランティア＞
にほんご まな く がくしゅうしゃ きょうしふ かいさい び しゅうまつ
日本語を学びに来る学習者は、教室の開催日が週末と
へいじつ かいしゃ はたら ひと おお こくせき
いうこともあり、平日は会社で働いている人が多く、国籍で
み ちゅうごくじん あとうでき おお ほか べとなむじん
見ると、中國人が圧倒的に多く、その他はベトナム人など
とうなんあじあしゅつん ひと
東南アジア出身の人がいます。

いぜん にほんご はな ひと さんか
以前は、日本語がほとんど話せない人も参加していました
さいきん さんかしや みな じょうず にほんご はな かた
たが、最近の参加者の皆さんには上手に日本語が話せる方
おお ぱらんていあ はな
が多いと、ボランティアが話していました。
ぱらんていあ げんさい にじゅうめい かた かいいんとうろく
ボランティアは、現在、20名の方が会員登録しています
いぜん がくせい かいしゃ はたら ひと げんさい
す。以前は学生や会社で働いている人もいましたが、現在
ていわんたいしょく ひと もゆうしん
は定年退職された人が中心です。

がくしゅうはうほう ないよう
＜学習方法と内容＞

がくしゅう ほうほう ひとり ぱらんていあ ひとり がくしゅうしゃ おし
学習の方法は、一人のボランティアが一人の学習者に教
まんつーまん けいしき ひとり ぱらんていあ ふくすう
えるマンツーマン形式と、一人のボランティアが複数の
がくしゅうしゃ おし ぐる一 ぶけいしき へいよう きほんてき
学習者に教えるグループ形式を併用しています。基本的に
まいかい おな ぱらんていあ おな がくしゅうしゃ おし
は毎回、同じボランティアが同じ学習者に教えるようにして

います。

がくしゅう しよう きょうさい きょうしふ とういつ てきすと
学習に使用する教材は、教室で統一しているテキストな

がくしゅうしゃ もくひょう かんしん あ
どはありません。学習者の目標や関心に合わせて、
ぱらんていあ じゅんび にほんご てきすと がくしゅうしゃじしん
ボランティアが準備した日本語のテキストや、学習者自身が
も ほん つか

持ってきた本などを使ってています。

しゅざい い ひ しはん にほんご てきすと しんぶん き
取材に行った日も、市販の日本語テキスト、新聞記事、

かわぐち おかし しゃしんしゅう ぱらんていあ くふう
川口市の昔の写真集などさまざまで、ボランティアも工夫さ
ほんし とも とも
れています。ちなみに、本誌「TOMO×TOMO」も
きょうさい つか へんしゅういいん
教材に使ってくれているそうで、編集委員としてはうれしく
かん
感じました。

きょうしふ ふんいき
＜教室の雰囲気＞

がくしゅうしゃ みな ねっしん わ いみ
学習者は、皆さんとても熱心で、分からぬ意味などを
せつきよくてき しつもん しんがたころなういるす かんせん

積極的に質問していました。新型コロナウイルスの感染
ぼうし もくべき かんき きょうしふ でい ぐち あ
防止を目的に、換気するため教室の出入り口を開けている

きょうしふまえ ろうか さんかしゃ こえ
ということもあります。教室前の廊下にまで参加者の声が
き ねつい つた

にほんご がくしゅう がくしゅうしゃ ぱらんていあ
聞こえてきて、熱意が伝わってきました。

また、日本語の学習だけでなく、学習者とボランティアの
し きょうみ おし あ

それそれが知っていること、興味があることを教え合ってい
たん にほんご べんきょう ば
るようでした。単に日本語を勉強するだけの場ではなく、

がくしゅうしゃ ぱらんていあ たが
学習者とボランティアがお互いに

おし あ こうりょう ば
教え合い、交流する場となってい
きょうしふ く たの

ることが、教室に来る楽しみとなり、継続的な学習につながって
けいぞくでき がくしゅう おも

いるのではないかと思いました。



きょうしふ なまえ かわぐちこくさいゆうこうがくいん
教室の名前:川口国際友好学院

かわぐちし ぱらんていあ にほんごきょうしふいちらん じゅうさん
(川口市ボランティア日本語教室一覧No.13)

かつどうにちじ おしゅうど ようび ごぜんくじさんじっぷん しょうご

活動日時:毎週土曜日午前9時30分~正午

ばしょ きゅう はらん えむよんかい かわぐちえきひがしぐち と ほいんぶん

場所:キュボ・ラM4階(川口駅東口から徒歩1分)

れんらくさき なかむら
連絡先:048-223-0870(中村さん)

A Volunteered Japanese Language Class in Kawaguchi City ～Kawaguchi International Gakuin～



There are 18 volunteered Japanese language classes for non-Japanese speakers who live or work in Kawaguchi City. Today, we are going to show you one of them, "Kawaguchi International Gakuin".

<Main activities>

Kawaguchi International Gakuin opens classes at a Cupo・la building M4F, close to JR Kawaguchi station, on every Saturday. Around 30 learners and volunteers were in the room when I visited the class for interview in mid-October. Before the COVID-19 pandemic, they had more attendants than that, sometimes reaching the largest of more than 50 that the attendants were overflowing out of the room.

Other than helping learners learn Japanese, they have events on "Japanese Speech Meet", "Compile a collection of learners' compositions", "Educational excursions", etc. Unfortunately, these events have been cancelled due to the COVID-19 pandemic at the time of our interview.

<Learners・Volunteers>

Since this class opens on weekends, learners are mostly workers who have their own jobs on weekdays. Breaking down by nationality, the largest is learners from China, and the rest are from Vietnam and other South-East Asian countries.

According to a volunteer, they occasionally had learners who could not speak Japanese at all, but these days lots of learners are very good at speaking.

Around 20 names are registered as volunteers now. They used to have students and workers on the staff, but nowadays the staff consists of retired persons.

<Teaching method and contents>

Here, they employ one-on-one teaching style in which one staff teaches one learner, and group teaching style in which one staff teaches multiple learners. As a rule, the same staff takes on the same learner each week.

As for teaching materials, there is no designated materials in the class. In accordance with the learner's aim of study or interests, they use Japanese language text books prepared by the staff, or books which learners bring to the class, as teaching materials.

On the day I visited, they brought Japanese textbooks bought at a bookshop, articles from newspapers, photobook of old scenery of Kawaguchi City, etc. I could see the staff's meticulousness in choosing what they use. Incidentally, they said they were using our "TOMO×TOMO" as a learning material, which made me flattered as one of the editorial staff.



<Atmosphere of the class>

Learners were all ardent, asking questions to clear any obscure points. Since they left open the door of the room to secure a good ventilation as the prevention measure against COVID-19, I could hear the learners' and staff's lively voice even from the hallway.

Not only just learning Japanese, they, learners and volunteers, seemed to be sharing information each other on topics they knew well or currently have great interest. It is not just the place to learn Japanese. It provides a place of supporting each other as well as the exchange of information. That fascinates learners to keep coming to the class, and at the same time encourages continuous learning for all learners.

Name of the Class: Kawaguchi International Gakuin
(No.13 on Kawaguchi City Volunteered Japanese Classes)
Open hours: Saturday from 9:30 ~ 12:00
Place: Cupo・la M4F(1 min. walk from JR Kawaguchi station)
Contact: 048-223-0870(Mr. Nakamura)



川口市志愿者日语教室的介绍

——川口国际友好学院——

川口市有18个日语教室，由志愿者向生活在川口市等地区的外国人教授日语。这次我采访了其中的一个名为“川口国际友好学院”的教室。

<活动概要>

“川口国际友好学院”每周六在川口站前的Cupo・1a M4楼举办日语教室。在10月中旬我采访他们的那天，参加日语教室的人数，包括学员和志愿者在内不到30名。然而，据他们介绍，在新冠病毒感染扩散之前有30名以上的人参加，多的时候有50名以上，有时还出现房间都坐不下的情况。

除了开展支援日语学习的活动之外，这个教室还组织了“日语发表会”、“制作作文集”和“社会研究访问”等其他活动。遗憾的是，由于新冠病毒的影响，在采访时这些活动已经暂停了。



<来参加的学员和志愿者>

来学习日语的学员当中，平时在公司上班的人比较多，这与教室的举办日是在周末也有关系。从国籍上看，中国人占绝对多数，其他还有越南人等东南亚出身的人。以前也有几乎不会说日语的人来参加学习，但是最近第一次来参加学习时就能说一些日语的人比较多。

目前有20名志愿者注册为会员。以前志愿者中也有学生或在公司工作的人，但现在主要是退休人员。

<学习方法和内容>

这个教室采取两种形式相结合的学习方式：一个志愿者教一个学员的一对一的形式，和一个志愿者教几个学员的小组形式。一般情况下，每次都尽量做到由同一个志愿者教同一个学员。

关于学习时所使用的教材，在这个教室没有统一的教科书等。志愿者们会根据学员的目标和兴趣准备日语教科书，或者使用学员自己带来的书籍。

去采访的那天，大家使用的教材各种各样，有市面上出售的日语教科书、报纸文章和川口市的旧相册等。我感觉那天志愿者们也是精心准备了。顺便说一下，听说他们也将这本“TOMO×TOMO”杂志作为教材来使用。作为编辑委员我感到很高兴。

<教室的氛围>

学员们都非常热衷于学习，遇到自己不理解的东西就积极提问。为了防止新冠病毒的传染，教室的门被打开通风。因此在教室前面的走廊上可以听到大家的说话声，感受到他们的学习热情。

另外，在教室里大家不只是学习日语，学员和志愿者之间还相互传授自己知道的事、感兴趣的事。这个教室不仅是一个学习日语的地方，也是一个学员和志愿者相互传授知识、相互交流的地方，我想这让大家觉得来教室是一种乐趣，也让大家能坚持学习下去。

教室名称：川口国际友好学院
(川口市志愿者日语教室一览表No. 13)
活动时间：每周六上午9点30分-正午
地点：Cupo・1a M4楼（从川口站东口步行1分钟）
联系方式：048-223-0870（中村先生）



Giới thiệu lớp học tiếng Nhật tình nguyện tại thành phố Kawaguchi Học viện hữu nghị quốc tế Kawaguchi

Tại thành phố Kawaguchi, có tất cả 18 lớp học tiếng Nhật do các tình nguyện viên dạy tiếng Nhật cho học viên là người nước ngoài sinh sống tại thành phố Kawaguchi. Lần này, chúng tôi sẽ thu thập thông tin và giới thiệu về “Học viện hữu nghị quốc tế Kawaguchi” là một trong số đó.

<Khái quát hoạt động>

Học viện hữu nghị quốc tế Kawaguchi tổ chức lớp học tiếng Nhật tại tầng M4 tòa nhà CuPola trước ga Kawaguchi vào thứ bảy hàng tuần. Số người tham gia lớp học tiếng Nhật vào một ngày trung tuần tháng 10, khi chúng tôi tới là gần 30 người bao gồm cả học viên và tình nguyện viên. Tuy nhiên, trước khi có sự lây nhiễm lan rộng của virut corona chủng mới, số người tham gia ít nhất là 30 người, thời điểm đông nhất lên tới trên 50 người đến mức không thể vào vừa phòng.





Ngoài các giờ học tiếng Nhật, các hoạt động khác như “thuyết trình tiếng Nhật”, “viết tuyên tập bài văn”, “thăm quan xã hội học” cũng đã được diễn ra. Tuy nhiên, do ảnh hưởng bởi virus corona chủng mới, thật đáng tiếc là các hoạt động đó đã bị tạm ngưng tại thời điểm lấy tin.

<Học viên và tình nguyện viên đang tham gia>

Những học viên đến với lớp học tiếng Nhật hầu hết là những người đi làm vào ngày thường và có ngày cuối tuần để tham gia lớp học, nếu nhìn về quốc tịch, người Trung Quốc chiếm số đông áp đảo, còn lại là những người xuất thân từ các nước Đông Nam Á như người Việt Nam.

Theo các tình nguyện viên cho biết, trước đây, chỉ người hầu như không thể nói tiếng Nhật tham gia lớp học, nhưng những học viên tham gia gần đây có rất nhiều người nói tiếng Nhật khá流利 (trôi chảy).

Hiện nay, có tất cả 20 người đăng ký là tình nguyện viên. Trước đây, trong tình nguyện viên cũng có cả học sinh và người làm việc ở công ty, nhưng giờ đây người đã về hưu là chủ yếu.

<Phương pháp và nội dung học tập>

Phương pháp học tập được tổ chức đồng thời hai hình thức: hình thức man-to-man là 1 tình nguyện viên hướng dẫn cho 1 học viên, và hình thức nhóm là 1 tình nguyện viên hướng dẫn cho nhiều học viên. Về cơ bản, họ cố gắng trong các buổi học, cùng một tình nguyện viên hướng dẫn cho cùng một học viên.

Về tài liệu sử dụng cho buổi học, không có giáo trình đồng nhất giữa các lớp học. Tùy theo mục tiêu và mối quan tâm của các học viên, họ sử dụng các giáo trình tiếng Nhật do các tình nguyện viên chuẩn bị hoặc sách do các học viên tự mang đến lớp học.

Vào ngày lấy tin, có vẻ các tình nguyện viên đã cung cấp chuẩn bị rất nhiều tài liệu, như sách học tiếng Nhật trên thị trường, bài kí sự trên báo, bộ suy tập ảnh từ ngày xưa của thành phố Kawaguchi. Nghe nói tạp chí “Tomo x Tomo” cũng được dùng làm tài liệu giảng dạy, và tôi cảm thấy rất vui khi mình là người biên tập của tạp chí.

<Không khí lớp học>

Tất cả các học viên đều tích cực đặt câu hỏi về những nội dung chưa hiểu bằng sự háo say. Để phòng chống lây nhiễm virus corona chủng mới, cửa ra vào lớp học luôn mở để lưu thông không khí, do đó, khi vào đến hành lang lớp học đã có thể nghe thấy rõ giọng nói của các học viên và cảm nhận được sự háo say, nhiệt tình của các học viên.

Hơn thế, lớp học không chỉ dạy tiếng Nhật, tình nguyện viên và học viên còn chỉ dạy cho nhau những điều đã biết, những điều thú vị. Đây không chỉ đơn giản là nơi để học tiếng Nhật, lớp học đã trở thành nơi để tình nguyện viên và học viên hướng dẫn, giao lưu cùng nhau. Khi học viên vui vẻ đến lớp học, chúng tôi cho rằng điều đó sẽ giúp cho việc học tập được lâu dài.

Tên lớp học: Học viện hữu nghị quốc tế Kawaguchi
(Danh sách lớp học tiếng Nhật tình nguyện thành phố Kawaguchi, số 13)
Thời gian hoạt động: thứ bảy hàng tuần, từ 9h30 sáng đến 12h trưa
Địa điểm: Tầng M4 tòa nhà CuPola (Ga Kawaguchi, cửa đông, đi bộ 1 phút)
Điện thoại liên hệ: 048-223-0870 (Ông Nakamura)



가와구치시 봄런티어 일본어교실 소개 ~가와구치 국제우호학원~

가와구치시에는 가와구치시 등에서 사는 외국인에게 자원봉사자가 일본어를 가르치는 일본어교실이 18개 있습니다. 이번에는 그 중 ‘가와구치 국제우호학원’을 취재했습니다.

<활동 개요>

가와구치 국제우호학원은 매주 토요일에 가와구치역 앞 큐폴라M4층에서 일본어교실을 개최하고 있습니다. 일본어교실의 참가인원은 10월 중순에 취재한 날은 학습자와 자원봉사자를 합쳐서 30명 미만이었습니다. 그러나 신종 코로나 바이러스 감염 확대 전에는 30명 이상, 많을 때는 50명 이상이 참가하여 교실에 다 들어갈 수 없었을 때도 있었습니다.

또, 일본어학습지원 이외에도 ‘일본어 발표회’, ‘작문집 작성’, ‘사회과 견학’ 등도 하고 있습니다. 그러나 어렵게도 이런 것들은 신종 코로나바이러스의 영향으로 취재일 시점에는 쉬거나 중지하고 있었습니다.

<참가하고 있는 학습자·자원봉사자>

일본어를 배우려 오는 학습자는 교실 개최일이 주말이기도 해서, 평일에는 회사에서 일하고 있는 사람이 많고, 국적을 보면 중국인이 압도적으로 많고, 그 외는 베트남 사람 등 동남아시아 출신인 사람이 있습니다.



전에는 일본어를 거의 못하는 사람도 참가하고 있었지만, 최근에 참가하고 있는 분들은 일본어를 잘 하는 사람이 많다고 자원봉사자가 말했습니다.

자원봉사자는 현재 20명이 회원등록을 하고 있습니다. 전에는 학생이나 회사에서 일하고 있는 사람도 있었지만 현재는 정년퇴직한 분들이 중심입니다.

<학습 방법과 내용>

학습방법은 자원봉사자 한명이 학습자 한명을 가르치는 멘토멘 방식과 자원봉사자 한명이 학습자 여러명을 가르치는 그룹형식을 병용하고 있습니다. 기본적으로는 매번 같은 자원봉사자가 같은 학습자를 가르치도록 하고 있습니다.

교실에서 학습에 사용하는 교재는 정해진 것이 없습니다. 학습자의 목표나 관심에 맞추어 자원봉사자가 준비한 일본어 교재나 학습자 자신이 가져온 책 등을 사용하고 있습니다.

취재하러 간 날도 시판되는 일본어 교재, 신문기사, 가와구치시의 옛날 사진집 등 다양했고 자원봉사자도 생각하고 있는 것 같았습니다. 참고로, 본 정보지 ‘TOMO×TOMO’도 교재로 사용되는 것 같아서 편집위원으로서 뿌듯했습니다.



<교실 분위기>

학습자는 모두 매우 열심이고, 모르는 의미 등을 적극적으로 질문하고 있었습니다. 신종 코로나바이러스 감염방지를 목적으로 환기하기 위해 교실 출입구를 열어놓고 있었지만 교실 앞 복도까지 참가자의 목소리가 들려와 열의가 전해졌습니다.

또한 일본어 학습뿐만 아니라 학습자와 자원봉사자가 각각 알고 있는 것, 흥미가 있는 것을 서로 가르쳐 주고 있는 것 같았습니다. 단순히 일본어를 공부하는 장소가 아니라, 학습자와 자원봉사자가 서로 가르쳐 주고 교류하는 장소가 되어 있는 것이 교실에 오는 즐거움이 되어서, 계속적인 학습에 이어지고 있는 것이 아닐까하고 생각했습니다.

교실이름 : 가와구치국제우호학원
(가와구치시 봉런티어 일본어교실 일람 No.13)
활동일시 : 매주 토요일 오전 9시30분~정오
장소 : 큐풀라 M4층 (가와구치역 동쪽출구 도보1분)
연락처 : 048-223-0870 (나카무라 씨)



せかい ことば つか 世界の言葉を使ってみよう！

わざか ことば し かんたん ことば と がいこくじん こみゅにけーしょん
難しい言葉を知らないでも、簡単な言葉のやり取りから、外国人とコミュニケーションができます。

つか
ぜひ使ってみてください！



| にほんご 日本語 | えいご 英語 | ちゅうごくご 中国語 | べとなむご ベトナム語 | かんこくご 韓国어 |
|-------------|--|---------------|----------------------------------|--------------------|
| よかったです | さつと いすりあり いぐれいと That is really great! | たいはおら 太好了 | とつぞーい にー ^T öt roi nhí | ちやるでんね よ 잘 됐네요. |
| うれ 嬉しいです | あい あむ ぶりーずど I am pleased! | かいしん 开心 | ぶーい Vui. | きぼよ 기뻐요. |
| かな 悲しいです | あい あむ さふど I am sad… | しゃんしん 伤心 | ぶおん Buôn. | するぼよ 슬퍼요. |
| びっくりしました | あい あむ さぶらいすど I am surprised! | ちらいじん 吃了一惊 | んがつ にえん Ngạc nhiên. | のるらつそよ 놀랐어요. |
| す 好きです | あい らいく いつと I like it. | しこはん 喜欢 | ていつ Thích. | じょあへよ 좋아해요. |

あいで じょうきょう おう つか
相手の状況に応じて使えると、よりよいですね！

だいじゅうろくごう　れいわ　にせんにじゅうに　ねんろくがつ　はつこう　よでい
第16号は令和4(2022)年6月に発行する予定です。

| | |
|---------|--|
| ・編集・発行 | 川口市 市民生活部 協働推進課 多文化共生係 |
| ・編集長 | 桑玲君 |
| ・副編集長 | 田中雅子 |
| ・編集委員 | 岸田洋二 斎藤守央 塩瀬潔泉 嶋澤紗羅 |
| ・翻訳者 | (英) 安井ルイ (中) 陳晨 姚新華 (越) 木村友紀 レータン フェン (韓) 李淑炯 李興秀 |
| ・表紙デザイン | 嶋澤紗羅 |